



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)

【 2019年度 年次報告書 】

《2019年度(R01)活動実績・2020年度(R02)活動計画》

2020年4月1日

(更新：2020年5月31日 v9.2)





目次

1	当団体について	3
1.1	設立趣旨書	4
1.2	活動基本	5
1.3	活動方針	6
1.4	活動実績	8
1.5	組織概要	27
1.6	会員制度	27
1.7	団体登録先・情報登録先	28
1.8	当団体運営	29
2	2019年度活動実績（平成30年度／令和元年度）	31
2.1	福島 of 課題	31
2.2	活動方針	31
2.3	活動目的	31
2.4	全体事業実績（概要）	33
2.5	事業詳細	35
2.6	2019年度の役員・スタッフ	47
2.7	2019年度総括（令和元年）	48
3	2020年度活動計画（令和2年度）	50
3.1	福島 of 課題	50
3.2	活動方針	50
3.3	活動目的	51
3.4	全体事業計画（概要）	52
3.5	事業詳細	54
3.6	2020年度の役員・スタッフ	62
3.7	最後に	64
4	補足資料	65
4.1	活動様子（年度毎、事業毎の記録・写真）	65
4.2	2020年度の活動日程（計画、一部抜粋、状況により変更あり）	87



1.当団体について



1 当団体について

当団体は、ボランティアとして2011年5月より岩手県に3分の1、宮城県に3分の1、そして福島には個人で3分の1として福島応援の活動を進め、2011年10月より福島応援隊として有志の応援をいただき活動をさらに一歩前に進め、2012年1月11日に“kfop”を設立しました。

活動に当たっては、設立前の約半年間、福島にボランティアバスを出すべく、事前準備を進めましたが、福島へバスをなかなか出していただけでない現実、ボランティアバスを出すことへの理解がなかなか得られない現実、活動に理解がなかなか得られない現実がありました。そんな環境の中、バスは横浜の『シティアkses株式会社』様に出していただきました。活動先はスタッフが現地に赴き、受け入れ調整をさせていただきました。

設立当初の2012年度の主な活動としては

(1) 現地活動

福島市の福島市社会福祉協議会募集のボランティア（渡利地区、大波地区）。
福島市の任意団体の復興応援活動（借上げ住宅・近隣にお住まいの皆様、応急仮設住宅に）。
南相馬市の鹿島区社会福祉協議会募集による小高区での屋外活動（山側、海側、街中）。
南会津での大熊町の子どもたちを対象とするイベント支援活動。
最終の福島12便は、福島復興プロジェクトチーム「花に願いを」で活動。

(2) 県内活動（神奈川県内での活動）

神奈川県内に避難を余儀なくされている皆様へのお手伝い、避難されている方々の気持ちは私たちには十分には分からないかも知れませんが、少しでも近づければ、との気持ちで。
かながわ東日本大震災県内避難者支援ネットワークに協力し、弁護士よろず相談会。
同、町別（浪江町、双葉町、富岡町、楡葉町、大熊町）交流会。
同、また共催し「ふるさとコミュニティ in かながわ」の県内全体の交流会。
など、活動および協力ができました。

(3) 当団体の応援者は

2012年1月末時点で48名、2013年3月末に置いては167名（内会員は119名）と多くの方に応援をいただくことができました。2020年3月31日のメンバーは287名。

2012年度から、現在までの活動履歴は当団体HPに掲載しています。

2020年度も継続し、福島の応援を続けていく。

ご参加いただきました皆様、応援をいただきました皆様、寄付をいただきました皆様、支援金をいただきました皆様、そして私たちを受け入れてくださいました現地の皆様、交流会にお越しいただきました避難されている皆様（県外からもお越しいただきました）、同じく交流会にご協力をいただきました行政の皆様に感謝いたします。

かながわ「福島応援」プロジェクト
代表 渡辺孝彦



1.1 設立趣旨書

1.1.1 趣旨

2011年3月11日に地震と津波による被害を受けた東京電力第一原子力発電所は、全電源を喪失して原子炉の冷却ができなくなり、大量の放射性物質放出を伴う重大な原子力事故に発展した。これにより浜通り地域を中心に、周辺地帯の住民は長期の避難と、福島県の住民へのいわれなき差別、いじめ、風評被害、観光の打撃と、今も大きな苦難を強いられています。

かながわの「かながわ東日本大震災ボランティアステーション」では岩手県・宮城県に向けて活発な支援が続けられていますが、福島県への支援は今なお実現していません。

また、福島県は今もなお復旧に至らず、復興ままならない状況下にあります。

その中で、福島県に住んでいる方々、福島県から避難される方それぞれの方へ応援をしていきたい。神奈川県から「福島を応援する」その主旨で、かながわ「福島応援」プロジェクトを設立するものです。

1.1.2 活動

- (1) 直接活動（家屋内外の片付け、街中掃除、仮設訪問、子どもたち支援等をしていきたい）
- (2) 県内支援（神奈川県内、関東圏に避難されている方へのお手伝い）※1
- (3) 情報発信（福島県での活動、観光情報、温泉情報、特産物情報、など発信したい）
- (4) 災害復旧支援（地域を特定せず、台風や豪雨等の自然災害による甚大被害が発生したとき、現地の要請に基づきその復旧支援等を行う。）※2

を行い、今までと同じように笑顔があふれ、子どもたちも楽しく・のびのびと遊んでいる福島県であることを願い活動を展開し、また、神奈川県から応援の輪を広げるために、多くの方の参加者を募り活動していきたい。

1：(2)の県内支援活動は設立当初はなく、私たちは現地福島に直接行きお手伝いする、神奈川県内に避難されている方のことは神奈川県に住む方で応援してほしい。その思いでありましたが、県内での応援もまだまだ十分ではなく、必要、と感じ2012年度に活動を追加したものです。

※2：(4)の災害復旧支援は平成27年台風第18号を受け2016年度に明確化した。

1.1.3 経緯

- | | |
|-------------|----------------------------------|
| 2011年10月11日 | ボラステ※3のボランティア活動と平行して活動を開始（発起） |
| 2011年10月29日 | ボラステのボラバスチームメンバー参加により福島市ボランティア参加 |
| 2011年12月28日 | スタッフ含めた参加者の募集、本格設立へ行動（36人が賛同） |
| 2012年1月9日 | 初会合（賛同出席者16名） |
| 2012年1月11日 | 設立日とする。 |

※3：ボラステとは「かながわ東日本大震災ボランティアステーション」のこと。

2011.10.11

かながわ「福島応援」プロジェクト
設立代表 渡辺 孝彦

1.2 活動基本

かながわから福島を応援します。

非営利の任意ボランティア団体として、現地活動（福島県内での活動）、県内活動（神奈川県内を含む関東圏での活動）、情報発信（広く一般の方に）の3つを活動の基本、柱として、できることを少しずつでも進めます。

1.2.1 現地活動

福島県から避難される方、避難されている方、福島県に住む方へできることのお手伝いを**現地**で**直接**行う。他団体へ参加、連携を含めて福島復興、元気につながる活動を行う。

- (1) 県民が生活される場の街中掃除等ボランティア活動
- (2) 福島県内のご自宅の庭の手入れ・家屋内の片付けなど
- (3) 仮設住宅、借上げ住宅、新たな住居に住まわれている方へのボランティア活動など
- (4) 福島の地域復興の応援。

1.2.2 県内活動

神奈川県および近郊に避難されている方の交流会、お手伝い。および被災地自治体、団体・神奈川県内の自治体、団体とのつなぎ手として支える**活動**を行う。

1.2.3 情報発信

福島県でのボランティア活動、観光情報、温泉情報、特産品情報など「現地活動」「視察研修」「講演会」「美味しいふくしま伝え隊」などを通して**福島の元気に、笑顔につながる情報**を発信する。

1.2.4 災害復旧支援

地域を固定せず、台風や豪雨等の自然災害による甚大被害が発生した際には、現地の要請に基づきその**復旧支援等**を行う。

そして、今までと同じように笑顔があふれ、子どもたちも楽しく・のびのびと遊んでいる福島であることを願います。

さらに、神奈川からつながりの輪が大きくなり、多くの方に福島を訪れていただけることを願います。

1.3 活動方針

1.3.1 はじめに

「福島応援」の形も少しずつ変化してきています。避難指示の解除が段階的に進む中で、帰還された方、帰還を迷われている方、避難先で生活再建を目指されている方、新たに移住した方、それぞれの立場と気持ちを尊重しながら、ふるさととの精神的なつながりの維持、コミュニティづくり、交流などが必要とされています。福島に住む方々の心情も、復旧から復旧・復興へ向けて、支援する側・される側ではなく、お互い対等な立場で共に動こうという方向性に変化してきています。私たちも、現地の状況を確認しながら、一緒に活動できる関係を築いていきたいと考えています。

まだまだ笑えないことは多くあります。

- ・ 避難を余儀なくされた方は、まだまだ先が見通せない中で前に進んでいます。
- ・ 福島に戻られた方や、新たに移住した方も、震災以前とは違う環境でありながら、前向きな気持ちで頑張っています。
- ・ 福島に住む方は、支援ではなく「ぜひ遊びに来て、楽しんで」と歓迎してくれます。

私達は「福島応援」を掲げて活動する団体です。

- ・ 「福島応援」の名は、上から目線と感じさせてしまう場合もありますが、活動を始めたときからの想いがある名前です。
- ・ 復旧から復旧・復興へ向けて、支援する側・される側ではなく、お互い対等な立場で共に動こうという精神を活動方針として、これからも進みます。
- ・ 楽しい企画も考えていきます。
- ・ 皆さんもそんな方針を理解して一緒に進んでいただけることを願います。

(追記：2020.4.1)

1.3.2 長期的方針

私たちは、東日本大震災と東京電力福島第一原発事故によりいまだ大きな苦難の中にある福島を長期にわたって応援し続けるために、持続可能な事業計画と予算計画を立てて団体としての活動を維持します。

いずれの活動についても、当事者の方々が必要とする支援や環境は時間とともに変化します。特に相双地域では避難区域の解除が進み、さまざまな課題が発生してくると見られます。そうした変化を理解し、柔軟に対応できる体制、予算的な余裕、他団体とのつながりも必要です。その一貫として、現地の状況を把握するための情報収集、現地の行政や民間団体とのつながりの維持を目的とした現地訪問や会議への参加も積極的に行います。

同時に、神奈川をベースとしながら長期的に現地に関わっていける連携先も模索していきます。

(1) 当団体は、黙々と活動を行う

何が無くても福島に行く、その心づもりが基本となります。



福島の復旧・復興を願う。

福島の観光・温泉・果物・農産物などの応援をする。

福島の子どもたち、避難を余儀なくされている皆様に少しでも応援になることをする（重きを置くこと）。

(2) 福島の活動においては、ご家族の理解も得て行う

(3) また、スタッフ、参加者ともに無理はしない

できることを

できるときに

できる範囲で

(4) 活動のすべて

- ・ kfop 日程表、プロフィール、活動内容、設立趣旨、団体規約、事業計画兼活動報告、活動履歴、会員募集、ご寄付、会計報告
- ・ 講演会・集い
- ・ ボランティア募集情報
- ・ 現地活動の様子
- ・ 神奈川県内での活動
- ・ 災害復旧支援
- ・ 更新情報

など、長く福島の応援を続けることができるために、すべての情報を、当団体の HP で公開しています。



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2019年度(R01)活動実績・2020年度(R02)活動計画≫

1.4 活動実績

1.4.1 現地活動（他事業の活動も含む）

年度	活動先	実施回数	参加者数
2011	小名浜復興センターボランティア	毎週末	(1名)
	いわき市復興センターボランティア	毎週末	(1名)
2011	福島市大波地区ボランティア	6回	29名
	小計	6回	29名
2012	福島市渡利地区ボランティアバス	3回	57名
	福島市復興応援ボランティアバス	6回	155名
	南相馬市小高区ボランティアバス	2回	67名
	会津若松市（大熊町）ボランティア	1回	6名
	福島市「花に願いを」ボランティアバス	1回	22名
	小計	13回	307名
2013	福島市渡利「花見山公園」花見バス	1回	23名
	福島市「花に願いを」ボランティアバス（他3回中止）	8回	136名
	静岡県西伊豆町水害ボランティアバス（他1回中止）	1回	21名
	南相馬市小高区ボランティアバス	5回	96名
	小計	15回	276名
2014	福島市渡利「花見山公園」花見バス	1回	17名
	福島市「花に願いを」ボランティアバス	2回	4名
	南相馬市小高区ボランティアバス	10回	159名
	福島県内応急仮設住宅等訪問	4回	5名
	小計	17回	185名
2015	視察研修便（富岡町、大熊町）	2回	37名
	南相馬市小高区ボランティアバス	10回	160名
	川内村訪問・支援活動	1回	6名
	現地自治体等訪問（現地訪問）除く講演依頼等	1回	2名
	双葉郡未来会議	1回	2名
	小計	15回	207名
2016	南相馬市小高区ボランティアバス	8回	129名
	視察研修便（双葉町、浪江町）	2回	41名
	その他現地活動（含む有志野馬追）※有志活動	4回	13名
	災害復旧支援（発生時）	0回	0名
	現地自治体等訪問（維持管理）除く講演依頼等	1回	2名
	小計	15回	185名



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2019年度(R01)活動実績・2020年度(R02)活動計画≫

年度	活動先	実施回数	参加者数
2017	南相馬市小高区ボランティアバス（バス便）	5回	84名
	南相馬市小高区ボランティア（広域便）	4回	36名
	川内村ボランティア（広域便）	2回	8名
	葛尾村ボランティア（広域便）	1回	5名
	浪江町ボランティア（広域便）	2回	12名
	視察研修便（川内村・葛尾村）	1回	16名
	現地自治体等訪問（維持管理）	3回	6名
	その他現地活動（相双ボラ、野馬追等）※有志活動	2回	8名
小計	20回	175名	
2018	浪江町ボランティア（バス便・広域便）	8回	81名
	浪江町ボランティア（相双ボランティア）	1回	8名
	川内村ボランティア（広域便）	5回	29名
	葛尾村ボランティア（広域便）	2回	18名
	視察研修便（相馬市、新地町）	1回	10名
	その他（原発視察、野馬追、金水晶田植）※有志活動	3回	14名
	福島訪問（維持管理他）	3回	6名
小計	23回	166名	
2019	川内村ボランティア（広域便）（他2便中止）	5回	30名
	葛尾村ボランティア（広域便）	2回	14名
	飯舘村ボランティア（試行便）	1回	2名
	ビーチクリーンバス便（相馬市1回、新地町1回）	2回	22名
	視察研修便（富岡町、大熊町、檜葉町木戸川漁港）	1回	15名
	災害復旧支援（南相馬市・本宮市、いわき市）（他いわき市1便が雨天中止）	2回	10名
	福島訪問（維持管理他）	3回	5名
	小計	16回	98名
全体合計（概数）		140回	1,628名



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2019年度(R01)活動実績・2020年度(R02)活動計画≫

1.4.2 連携活動

年度	活動先	実施回数	参加者数
2011	冬物衣料お渡し参加 (チームぼかぼか)	1回	1人
	福島キッズスタッフ参加 (福島キッズ)	3回	3人
	ふくしまボランティアフェスティバル (飯坂)	1回	6名
	Epc 福島に寄り添う会 (青山国際大学)	2回	1名
2012	Epc 福島に寄り添う会 (青山国際大学)	1回	1名
	大波城址ひまわり播種 (大波地区)	2回	5名
	福島キッズスタッフ参加 (福島キッズ)	3回	3名
	郡山市開成高校演劇	1回	1名
	福島シネマプロジェクト (飯坂温泉)	1回	2名
	神奈川建築安全協会 (活動報告会)	1回	3名
	第1回「ふるさとコミュニティ in かながわ」	1回	共催
	第2回「ふるさとコミュニティ in かながわ」	1回	共催
	町別交流懇談会・”しゃべりば”・弁護士相談会	22回	協力
2013	南相馬市応急仮設住宅	1回	3名
	ふるさとバス	2回	協力
	第3回「ふるさとコミュニティ in かながわ」	1回	共催
	第4回「ふるさとコミュニティ in かながわ」	1回	共催
	町別交流懇談会・お茶っこ会	12回	協力
	福島の食と地酒を楽しむ会 (日経ホール)	1回	7名
	分かち合いセミナー (飯田橋)	1回	3名
2014	第5回「ふるさとコミュニティ in かながわ」	1回	共催
	第6回「ふるさとコミュニティ in かながわ」	1回	共催
	町別交流懇談会・お茶っこ会等	20回	協力
2015	特定非営利法人かながわ避難者と共にあゆむ会	各回	各人
	避難者交流の場「ふれ愛」	1回	2名
	町田餅つき	1回	2名
	双葉郡未来会議 (郡山)	1回	2名
2016	特定非営利法人かながわ避難者と共にあゆむ会	各回	各人
	古殿町 (田植え・稲刈り・案山子作り)	1回	2名
	南相馬市交流懇談会 (南相馬市協力依頼)	2回	6名
	相馬野馬追	1回	6名
	ふるさと未来創造会議 (葛尾村)	1回	1名
	相模原市交流会 (ぶーたん)	1回	2名
	着付け・写真撮影 (相模女子短大)	1回	2名
	双葉八町村会議 (広野町)	1回	2名
	相双ボランティア	1回	2名



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2019年度(R01)活動実績・2020年度(R02)活動計画≫

年度	活動先	実施回数	参加者数
	そうま食べる通信 (横浜)	1回	2名
	JCN・や・ゆ・よ・Skype 会議	1回	1名
2017	特定非営利法人かながわ避難者と共にあゆむ会	各回	各人
	端数倶楽部 MTG (県サポ)	1回	5名
	端数倶楽部運営委員会 (活動紹介)	1回	1名
	相馬野馬追	1回	6名
	バス運営セミナー (TVAC)	1回	1名
	大熊町ふるさと応援隊 (活動報告会協力)	1回	3名
	南相馬市社協感謝祭	1回	2名
2018	特定非営利法人かながわ避難者と共にあゆむ会	各回	各人
	とみおかさんがねか? (町田)	1回	2名
	相馬野馬追	1回	5名
	原発視察参加	1回	8名
	葛尾村 結の米作り (下枝様)	2回	18名
	F's pocket 金水晶稲刈り	1回	2名
	葛尾村イベント (秋葉原)	1回	3名
	葛尾村の新米を食べる (下枝様)	1回	4名
	アズビル (株) 伊勢原工場 防災講話(講師紹介)	1回	1名
	H.I.S ふくしま感謝祭 (菅野様)	1回	2名
	ソトコト取材	1回	2名
	おだかぷらっとほーむ (わんこそば、廣畑様)	1回	2名
	上映「新地町の漁師たち」	1回	30名
2019	NPO 法人かながわ避難者と共にあゆむ会理事会・総会	1回	1名
	市民活動フェア企画部会	1回	1名
	市民活動フェア 2019	1回	14名
	台風 19 号連絡会	7回	13名
	台風 19 号バス運行連絡会	1回	0名
	内閣府主催防災会	1回	1名



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2019年度(R01)活動実績・2020年度(R02)活動計画≫

1.4.3 視察研修

年度	実施日	視察先	参加者	協力
2015	2015. 4. 11-12 (1号)	富岡町	20人	富岡町 株式会社 報徳観光 白鳥温泉 春木屋旅館 特定非営利活動法人ザ・ピープル
	2015. 10. 24-25 (2号)	大熊町	17人	大熊町、大川原復興拠点 特定非営利活動法人 大熊町ふるさと応援隊 好間工業団地第三応急仮設住宅自治会 Jヴィレッジ、福島給食センター 株式会社 報徳観光 白鳥温泉 春木屋旅館
2016	2016. 5. 28-29 (3号)	双葉町	20人	双葉町 いわき・まごころ双葉会 田人おふくろの宿 シティアクセス株式会社
	2016. 10. 22-23 (4号)	浪江町	21人	浪江町 社会福祉法人 浪江町社会福祉協議会 大堀相馬焼協同組合 陶芸の杜 おおぼり 二本松 工房 ヘルシーパルあだたら シティアクセス株式会社
2017	2017. 10. 28 (5号)	葛尾村	17人	一般社団法人 葛力創造舎 代表理事 下枝浩徳様 葛尾村 社会福祉法人 葛尾村社会福祉協議会 松本邦久様 (実証田圃場) 川島博幸様 (地元の方、葛尾村社協職員) カフェ嵐が丘 堀江安則様、みどり様 みどりの里 せせらぎ荘
	2017. 10. 29 (5号)	川内村	17人	川内村商工会 会長 井出茂 様 川内村 井出寿一 様 (元・川内村復興課長、現・福島発 電株式会社 浜通り事務所 所長) 秋元洋子 様 (元・川内へ迎える会 会長、現・川 内村婦人会 会長) かわうちワイン株式会社 社長 高木亨 様 いわなの郷 (コテージ、レストラン幻魚亭) Café Amazon (コドモエナジー株式会社 川内第 一工場長 川口司朗 様)



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2019年度(R01)活動実績・2020年度(R02)活動計画≫

年度	実施日	視察先	参加者	協力
2018	2019. 02. 17 (6号)	相馬市	10人	相馬市 企画制作部 企画政策課 課長補佐兼復興推進 係長 荒川誠 様 企画制作部 企画政策課 復興推進係 主査 星杏奈 様 千客万来館 管野昌孝 様(相馬観光復興御案内 処) 復興支援員 主任 井島順子 様 小幡 広宣 様(そうま食べる通信共同編集長/ 株式会社広栄土木 代表取締役) ホテルみなとや (女将 管野忍様) 一般社団法人そうま食べる通信 (常世田 隆様、 飯塚哲生様、黒田夏貴様)
	2019. 02. 18 (6号)	新地町	10人	新地町 復興推進課 専門官 加藤泉 様 復興推進課 専門官 吉本幸弘 様 復興推進課 コミュニティ支援員 川上照美 様
2019	2019. 11. 16 (7号)	富岡町	15人	平山 勉 様 (相双ボランティア代表、双葉郡未来会議事務 局、有限会社ホテルひさご代表平山"two"勉) ふたばいんふお 富岡ホテル 支配人 渡辺信一 様
	2019. 11. 17 (7号)	大熊町	15人	一般社団法人おおくままちづくり公社 事務局長 高田吉弘 様
	2019. 11. 17 (7号)	木戸川 漁協 (檜葉町)	15人	木戸川漁業協同組合 鮭ふ化場長 鈴木謙太郎 様



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2019年度(R01)活動実績・2020年度(R02)活動計画≫

1.4.4 講演会・勉強会（情報発信）

年度	実施日	講演内容
2015	2016. 1. 9 第1回 (講演会)	タイトル：南相馬の今 わたしたちにできること
		講師：小高区役所長 村田博 氏 / 課長補佐 根本剛実 氏 南相馬市災害復旧復興ボランティアセンター長 鈴木敦子 氏 進行：NPO 法人日本ファシリテーション協会 災害復興支援室 杉村郁雄 氏
		会場：かながわ県民センター2階ホール
		協力：南相馬市 社会福祉法人南相馬市社会福祉協議会、 神奈川県立かながわ県民活動サポートセンター 社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会 特定非営利活動法人日本ファシリテーション協会 (FAJ) 広報協力：特定非営利活動法人かながわ避難者と共にあゆむ会 NPO 法人かながわ 311 ネットワーク かながわ災害ボランティアバスチーム チームかながわ SUN
		参加者数：第一部 114 人、第二部 60 人
2016	2016. 6. 25 第2回 (講演会)	タイトル：避難指示解除後の檜葉町から語り部をお迎えして
		講師：高原カネ子さん (一般社団法人ならはみらい所属 ならはふるさと案内人)
		進行：東 尚子
		会場：鶴見公会堂 第1・第2会議室
		後援：檜葉町
		協力：一般社団法人ならはみらい 特定非営利活動法人かながわ避難者と共にあゆむ会
	講演会参加者数：33 人 懇親会参加者数：16 人	
2017. 1. 14 第3回 (講演会)	タイトル：福島のを伝える講演会「地域ではぐくむ創造の芽吹き」 講師：廣田拓也さん（二本松市、株式会社 GNS 常務取締役） 和田智行さん（南相馬市、小高ワーカーズベース代表） 下枝浩徳さん（葛尾村、葛力創造舎代表、双葉郡未来会議） ファシリテーター：鈴木まり子様 (特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会 (FAJ)) 会場：かながわ県民センター2F ホール 懇親会 (PRONTO プロント 横浜京急 EX イン店)	



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2019年度(R01)活動実績・2020年度(R02)活動計画≫

年度	実施日	講演内容
		共催：特定非営利活動法人かながわ避難者と共にあゆむ会 認定 NPO 法人かながわ 311 ネットワーク かながわ災害ボランティアバスチーム 協賛：azbil みつばち倶楽部 シティアクセス株式会社 協力：かながわ県民活動サポートセンター (=神奈川県) かながわ東北ふるさと・つなぐ会 特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会 (FAJ) 公益社団法人日本青年会議所関東地区神奈川ブロック協議会 一般社団法人葛力創造舎 株式会社小高ワーカーズベース 株式会社 GNS 特定非営利活動法人リーフ (Leaf) 後援：福島県、二本松市、南相馬市、葛尾村、社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会、一般財団法人 神奈川県建築安全協会 講演会参加者数：94 人 懇親会参加者数：42 人
2017	2017. 6. 24 第 4 回 (勉強会)	タイトル： 「富岡町の現状と展望」
		講師：菅野利行さん (富岡町 参事兼郡山支所長)
進行：東 尚子		
会場：鶴見公会堂 第 3 会議室		
後援：富岡町		
		勉強会参加者数：27 人 (うち kfop 会員 20 人、一般 7 人) 懇親会参加者数：22 人
2018. 1. 20 第 5 回 (講演会)		タイトル：ふくしまの農と人をつながる講演会
		講師：第一部 菅野瑞穂さん (きぼうのたねカンパニー株式会社 代表取締役) 第二部 廣野晶彦さん (あぶくまカットフラワーグループ、花卉栽培農家) 菅野瑞穂さん (きぼうのたねカンパニー株式会社 代表取締役)
		進行：第一部 東 尚子 第二部 菅野瑞穂さん
		会場：八洲学園大学 7 階 7A 会議室



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2019年度(R01)活動実績・2020年度(R02)活動計画≫

年度	実施日	講演内容
		共催：かながわ「福島応援」プロジェクト 富士ゼロックス株式会社 端数倶楽部 協力：特定非営利活動法人かながわ避難者と共にあゆむ会 認定 NPO 法人かながわ 311 ネットワーク かながわ災害ボランティアバスチーム 合同会社ふくわらい 協賛：azbil みつばち倶楽部 後援：神奈川県 物販：きぼうのたねカンパニー株式会社 合同会社ふくわらい 講演会参加者数：53人（うち一般33人、登壇・会員20人） 懇親会参加者数：28人
2018	2018. 6. 23 第6回 (勉強会)	タイトル：「全町避難から避難指示解除後、現在に至るまでの浪江町の状況と町民の生活再建に向けた浪江町の取り組み」 講師：宮口勝美さん（浪江町副町長） 進行：東 尚子 会場：八洲学園大学 7階 7A 会議室 後援：浪江町 勉強会参加者数：27人（うち kfop 会員 23人、一般 4人） 懇親会参加者数：19人
		タイトル：「地域をもっと良くするために！アクションを起こして可能性の種をまく」 講師：第一部 小幡広宣さん （一般社団法人そうま食べる通信共同編集長、広栄土木株式会社 代表取締役） 第二部 小幡さんにここが聞きたい！ （全員、意見交換） 進行：第一部 東 尚子 第二部 東 尚子 会場：かながわ県民活動サポートセンター 3階 305 会議室 共催：かながわ「福島応援」プロジェクト 富士ゼロックス株式会社 端数倶楽部 協力：一般社団法人そうま食べる通信 認定 NPO 法人かながわ 311 ネットワーク 特定非営利活動法人かながわ避難者と共にあゆむ会 かながわ東北ふるさと・つなぐ会 特定非営利活動法人神奈川災害ボランティアネットワーク
2019. 1. 17		第7回 (講演会)



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2019年度(R01)活動実績・2020年度(R02)活動計画≫

年度	実施日	講演内容
		<p>かながわ災害ボランティアバスチーム 協賛：azbil みつばち倶楽部 後援：神奈川県、相馬市 講演会参加者数：43人（うち一般21人、登壇・会員22人） 懇親会参加者数：17人</p>
2019	2019. 6. 15 第8回 (勉強会)	<p>タイトル：「福島とのさまざまな関わり方と今後の展望」 講師：鈴木亮さん（一般社団法人ふたすけ 理事／ふたば地域サポーターセンターふたすけ センター長） 進行：東 尚子 会場：八洲学園大学 9階 9A会議室 勉強会参加者数：27人（うちkfop会員23人、一般4人） 懇親会参加者数：19人</p>
		<p>2020. 1. 18 第9回 (講演会)</p> <p>タイトル：「今あらためて福島から学び次世代に伝えるために」 講師：一般社団法人AFW代表 吉川彰浩様（いわき市在住） 進行：東 尚子 会場：鶴見公会堂 第1・第2会議室 主催：かながわ「福島応援」プロジェクト 協力：一般社団法人AFW 特定非営利活動法人かながわ避難者と共にあゆむ会 かながわ東北ふるさと・つなぐ会 認定NPO法人かながわ311ネットワーク かながわ災害ボランティアバスチーム 協賛：azbil みつばち倶楽部 講演会参加者数：46人（うち一般22人、登壇・会員24人） 懇親会参加者数：20人</p>



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2019年度(R01)活動実績・2020年度(R02)活動計画≫

1.4.5 災害復旧支援（主に参加活動）

年度	活動先	実施回数	参加者数
2011	台風 15 号水害支援（郡山市）	2 回	2 名
2013	西伊豆水害復旧支援（幼稚園）ボランティアバス（主催）	1 回	21 名
	市民活動フェア	1 回	1 名
2014	兵庫県丹波市水害支援（参加）	1 回	1 名
2015	栃木水害支援（参加）	2 回	2 名
	神奈川県台風支援 PJ 情報交換会	1 回	1 名
	常総被災地視察	1 回	1 名
	常総ボランティア（参加）	2 回	3 名
	市民活動フェア	1 回	10 名
2016	神奈川県災害救援訓練	1 回	1 名
	市民活動フェア	1 回	16 名
2017	神奈川県支援センター開設訓練	1 回	1 名
	市民活動フェア（311 ネット協力）	1 回	1 名
2018	西日本豪雨災害会議	1 回	2 名
	西日本豪雨倉敷ボランティア	5 回	6 名
	新しい市民活動フェア	3 回	1 名
2019	市民活動フェア企画部会、市民活動フェア 2019	2 回	15 名
	台風 19 号連絡会、台風 19 号バス運行連絡会	8 回	13 名
	内閣府主催防災会	1 回	1 名
	（kfop 主催）災害復旧支援#1 便（南相馬市、本宮市）	1 回	6 名
	（kfop 主催）災害復旧支援#2 便（いわき市）雨天中止	0 回	0 名
	（kfop 主催）災害復旧支援#3 便（いわき市）	1 回	6 名
	（協力）認定 NPO 法人かながわ 311 ネットワークいわき便	2 回	広報協力
（協力）かながわ災害ボランティアバスチーム（丸森便）	1 回	広報協力	



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2019年度(R01)活動実績・2020年度(R02)活動計画≫

1.4.6 維持管理（現地訪問）

年度	活動先	実施回数	参加者数
2011	福島県ボランティアセンター	1回	1名
	福島市社会福祉協議会	2回	2名
	安齋果樹園（飯坂）	1回	1名
	福島市役所	1回	1名
	福島ライフエイド	1回	1名
	福島屋台村	1回	1名
	ふくふくプロジェクト	1回	1名
2012	南相馬ボランティア活動センター	1回	4名
	南相馬市災害復旧復興ボランティアセンター	2回	2名
	フォレストパーク安達太良	1回	2名
	福島市役所	1回	3名
	大波上組営農（大波城址ひまわり）	1回	3名
	福島りょうぜん漬け本店	1回	3名
	福島県庁、浪江町役場（二本松）、富岡町役場（郡山） 花に願いを、花見山公園	1回 1回	1名 2名
2013	檜葉町役場、いわき市役所、富岡町役場	1回	2名
	花に願いを	2回	3名
	かながわ県民活動サポートセンター	1回	1名
	神奈川県庁	1回	2名
	南相馬市役所、南相馬市社協	1回	3名
	南相馬市役所、南相馬市社協、福島県庁、福島市役所、浪江町役場（二本松）、二本松市役所、浪江町社協（二本松）	1回	1名
	花見山公園弔問	1回	1名
	福島県社協、福島市社協、浪江町福島市出張所、笹谷東部仮設、福島大学ボラセン、浪江町役場（二本松）	1回	1名
	平沢応急仮設住宅（富岡町）、笹田東部応急仮設住宅 南台応急仮設住宅（双葉町） 相模原市社協、相模原市役所、相模原市災ボラ	1回 1回 1回	1名 3名 1名
2014	福島県庁、福島県社協、南相馬市役所、南相馬市社協	1回	1名
	azbil 面会	1回	1名
	日本橋ふくしま館	1回	1名
	大堀相馬焼協同組合（二本松）、旧松川小応急仮設住宅（飯舘村）、二本松農園、松川第一応急仮設住宅（飯舘村）、松川第二応急仮設住宅（飯舘村）、あぶくま茶屋（かーちゃんの力・プロジェクト）、小田部応急仮設受託、富岡町役場（郡山）	1回	1名



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2019年度(R01)活動実績・2020年度(R02)活動計画≫

年度	活動先	実施回数	参加者数
2015	道の駅ふくしま東和、ななくさ農園、NPO 法人コースター、福島市社協、こらっせ福島、かーちゃんの力・プロジェクト協議会、浪江町役場、浪江町社協、大熊町役場、大熊町社協、大熊町ふるさと応援隊、双葉町役場	1回	2名
	南相馬市小高区役所	1回	2名
	FAJ (NPO センター)	2回	2名
	双葉町役場	1回	2名
2016	TB コーポレートセールス横浜	1回	2名
	浪江町役場、富岡町役場、葛尾村役場、	1回	2名
	広野町	1回	1名
	一般社団法人葛力創造舎、川内村役場、川内村商工会議所、小高ワーカーズベース、大熊町応急仮設住宅	1回	2名
	講演会共催依頼 (あゆむ会、311 ネット、ボラバス)	1回	2名
	講演会協力依頼 (県サポ、つなぐ会、JC 青年会議所、廣田様)	1回	2名
	講演会協賛依頼 (シティアクセス(株)、azbil(株)、JTB 横浜、神奈川県建築安全協会)	1回	2名
	FAJ (鈴木様) 県サポ	1回	2名
2017	ふたすけ、浪江町社協、富岡町役場 (副町長)、福島市社協 (佐藤様)、こらっせ福島、福島東和、葛尾村、川内村、かわうちブドウ畑、川内村 Amazon、富岡町内	1回	2名
	視察研修挨拶 (川内村役場 (副村長)、小松屋旅館、いわたの郷、葛尾村役場 (村長)、café 嵐が丘、葛尾村社協、石井食堂)	1回	2名
	ふたすけ、富岡町役場 (副町長)、浪江町社協 (寄贈)、浪江町役場 (副町長)、小高区役所 (区役所長、蕎麦こごた、南相馬市役所、南相馬市社協、道の駅東和、菅野様)	1回	2名
	浪江町社協 (寄贈)	1回	7名
2018	いわき・双葉まごころ会 (お見舞い)	1回	1名
	ふたすけ、浪江町役場 (副町長)、小高区役所 (区役所長)、南相馬市社協、江井さん (火事見舞い)、大熊町 (市川さん)、双葉町役場 (町長)	1回	2名
	ふたばいんふお、まちづくりなみえ	1回	2名



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2019年度(R01)活動実績・2020年度(R02)活動計画≫

年度	活動先	実施回数	参加者数
	ふたばいんふお／ふたすけ（平山さん、鈴木さん、下枝さん）、特定廃棄物埋立情報館リプルンふくしま、カフェy、浪江町役場（副町長、今野さん）、浪江町社協（畠山さん）、炙り侍 響（昼食）、南相馬市社協（広瀬常務、村上事務局長、鈴木さん）、おだかぷらっとほーむ（廣畑さん）、小高パイオニアヴィレッジ（場所と外観のみ確認）、小高ストア（場所と外観のみ確認）、小高区復興拠点施設「小高交流センター」、中間貯蔵工事情報センター、みんなの交流館 ならは CANvas（見学）、一般社団法人 葛力創造舎、田村市のみやこじスイーツゆい、川内村あれ・これ市場	1回	2名
2019	福島 106 便(福島訪問 1-28) 2019.05.26-27 渡部様(大熊町)、大橋様(双葉町)、相馬市(星様)、相馬観光協会(遠藤様・井島様)、福島県港湾局(高橋様)、みなとや旅館(菅野様)、新地町(黒澤様・小野様・加藤様)、大熊町(風間様)	1回	2名
	(福島訪問 2-29) 2019.08.04 平山様(富岡町)	1回	1名
	福島 111 便(福島訪問 2-30) 2019.09.08-09 一般社団法人 AFW(代表 吉川様)、木戸川漁協協同組合(鮭ふ化場長 鈴木様)、一般社団法人おおくままちづくり公社(事務局長 高田様)、平山様(富岡町)、富岡ホテル(支配人 渡辺様)	1回	2名



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
《2019年度(R01)活動実績・2020年度(R02)活動計画》

1.4.7 (参考)

美味しいふくしま (有志活動)

本活動の費用など、当団体の運営費は一切使用していません。個人・有志活動です。

収益が出た場合は、経費を差し引いた残りの全額を、福島への復興・復興に関わる支援団体、赤い羽根共同募金などへ全額寄付しています。

年度	実施日	会場	来場者	協力
2015	2015.8.3 17:00-22:00	復興バー銀座店 銀座	100人超	有志メンバー
2016	2016.11.9 17:00-22:00	復興バー@銀座 青山 TRUNK HOTEL	100人超	有志メンバー
2017	2017.7.8 15:00-21:30	復興バー@銀座 全国うまいもの交流サロンなみへい	100人超	有志メンバー
2018	2018.8.20 18:00-22:00	復興バー@銀座 秋葉原 日本百貨店食品館特設スペース	100人超	有志メンバー
2019	2020.1.29 18:00-22:00	復興バー@銀座 銀座 Nu dish deli & café	100人超	有志メンバー



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2019年度(R01)活動実績・2020年度(R02)活動計画≫

1.4.8 ご寄付・寄贈

寄付専用口座を持ち、HP 掲載にて広く一般からの寄付（寄付・支援金・助成金）を受け入れる。ご寄付・支援金・助成金は、すべて HP に掲載し、その用途もすべて会計の HP に掲載する。多くの皆様からのご寄付・ご支援に感謝申し上げます。

≪ご寄付・支援金等実績≫

年度	項目	金額	ご寄付・支援元
2012	寄付・寄贈	403,822 円	会員・一般の方からの寄付、事務用品等の寄贈 (お名前は HP 掲載)
	助成金 (寄付)	300,000 円	一般財団法人 神奈川県建築安全協会 様
2013	寄付・寄贈	472,571 円	一般の方からの寄付、事務用品等の寄贈 (お名前は HP 掲載)
	支援金 (寄付)	300,000 円	リコー社会貢献クラブ・FreeWill 様
	助成金 (寄付)	500,000 円	一般財団法人 神奈川県建築安全協会 様
	支援金 (寄付)	100,000 円	富士ゼロックス神奈川(株)端数倶楽部 様 富士ゼロックス神奈川株式会社様 (マッチング制度)
2014	寄付・寄贈	253,545 円	会員・一般の方からの寄付、事務用品等の寄贈 (お名前は HP 掲載)
	助成金 (寄付)	200,000 円	一般財団法人 神奈川県建築安全協会 様
	支援金 (寄付)	200,000 円	azbil みつばち倶楽部 様 アズビル株式会社 様 (マッチング制度)
2015	寄付・寄贈	604,461 円	会員・一般の方からの寄付、事務用品等の寄贈 (お名前は HP 掲載)
	支援金 (寄付)	200,000 円	azbil みつばち倶楽部 様 アズビル株式会社 様 (マッチング制度)
	支援金 (寄付)	100,000 円	富士ゼロックス株式会社 端数倶楽部 様 富士ゼロックス株式会社 様 (マッチング制度)
	助成金	210,000 円	赤い羽根「災害ボランティア・NPO 活動サポート募金」助成事業 16K-010 (南相馬市小高区活動)
		231,000 円	赤い羽根「災害ボランティア・NPO 活動サポート募金」助成事業 18K-005 (南相馬市小高区活動)
2016	寄付・寄贈	286,773 円	会員・一般の方からの寄付、事務用品等の寄贈 (お名前は HP 掲載)
	支援金 (寄付)	200,000 円	azbil みつばち倶楽部 様 アズビル株式会社 様 (マッチング制度)
	支援金 (寄付)	100,000 円	富士ゼロックス株式会社 端数倶楽部 様 富士ゼロックス株式会社 様 (マッチング制度)



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2019年度(R01)活動実績・2020年度(R02)活動計画≫

年度	項目	金額	ご寄付・支援元
	賛助金	30,000円 (30,000円)	シティアクセス株式会社 様 (azbil みつばち倶楽部 様)
	寄付 (一般)	5,000円	初参加者向け用 目的別寄付
	寄付 (一般)	51,200円	最少定員未達時用 目的別寄付
2017	寄付・寄贈	305,538円	会員・一般の方からの寄付、事務用品等の寄贈 (お名前はHP掲載)
	支援金 (寄付)	200,000円	azbil みつばち倶楽部 様 アズビル株式会社 様 (マッチング制度) 11/29 支援金を事業へ充当 (事業1: 95,000円、 事業6: 50,000円、事業7: 55,000円) ※事業1: 福島80便、福島81便に充当。
	支援金 (寄付)	200,000円	富士ゼロックス株式会社 端数倶楽部 様 富士ゼロックス株式会社 様 (マッチング制度) 寄付 (事業1: 52,000円、事業6: 48,000円、維持 管理: 100,000円充当) ※事業1は福島80便、福島81便に充当。
	賛助金	(30,000円)	(azbil みつばち倶楽部 様)
	寄付 (一般)	54,500円	初参加者向け等、バス寄付 4/22 福島72便に2口充当26,000円。12/9 福島 80便に初めて2名へ10,000円充当。 2/23 福島81便に3口充当、残額は帰路感謝の集 い参加者バス分へ充当3,000円/1口。
	寄付 (一般)	138,500円	浪江町社協への寄贈品寄付 2018. 3. 18 最終寄贈 (明細は寄付者へ提示済み)
	寄付・寄贈	408,520円	会員・一般の方からの寄付、事務用品等の寄贈、 一般社団法人 東北支援会+プラス様 50,000円 (お名前はHP掲載)
2018	支援金 (寄付)	200,000円	azbil みつばち倶楽部 様 アズビル株式会社 様 (マッチング制度) 支援金は事業へ充当 (事業1: 100,000円、事業3: 10,000円、事業4: 30,000円、維持管理60,00 円) させていただきました。
	支援金 (寄付)	200,000円	富士ゼロックス株式会社 端数倶楽部 様 富士ゼロックス株式会社 様 (マッチング制度) 支援金は事業費へ充当 (事業1: 80,000円、事業 3: 20,000円、事業4: 160,000円、維持管理: 40, 000円充当) させていただきました。



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2019年度(R01)活動実績・2020年度(R02)活動計画≫

年度	項目	金額	ご寄付・支援元
	寄付（一般）	23,000 円	南相馬市小高区に戻られた方への火事見舞い 19名
2019	寄付・寄贈	453,842 円	会員・一般の方からの寄付、事務用品等の寄贈 (お名前は HP 掲載)
	支援金（寄付）	200,000 円	azbil みつばち倶楽部 様 アズビル株式会社 様（マッチング制度） 支援金は事業へ充当
	支援金（寄付）	100,000 円	富士ゼロックス株式会社 端数倶楽部 様 富士ゼロックス株式会社 様（マッチング制度） 支援金は事業費へ充当

1.4.9 当団体からの寄付・寄贈

当団体から、会員に内容を示し寄付・寄贈を行った内容。

年度	項目	品目等	寄付・寄贈先
2012	寄贈	支援物資	双葉町の避難先（埼玉）へ生活物資支援。 トイレットペーパー252、ロールテッシュ 420 箱、 ペットボトル水 288 本
	寄贈	刈払機 1 台	南相馬市生活復興ボランティアセンター
		刈払機 1 台	南相馬市ボランティア活動センター
	寄贈	鎌 10 本	南相馬市生活復興ボランティアセンター
	寄贈	桜の植樹他	花見山を守る会。桜の植樹（2 口）、鎌 8 本、種 （ひまわり・アブラナなど）
	寄付	10,000 円	ふくしまキッズ
	寄付	50,000 円	福島市（こども支援、花見山・花見山周辺整備）
	寄付	50,000 円	福島県（避難者支援）
2013	寄贈	十能	西伊豆社会福祉協議会（台風水害支援）
	寄付	10,000 円	NPO 法人かながわ 311 ネットワーク
	寄付	10,000 円	福島復興プロジェクトチーム「花に願いを」
	寄付・拠出	240,000 円	かながわ避難者と共にあゆむ会「ふるさとコミュニ ニティ in かながわ」事業に寄付・拠出
	寄付・拠出	40,000 円	かながわ避難者と共にあゆむ会「交流会」事業に 寄付・拠出
	寄付・拠出	20,000 円	かながわ避難者と共にあゆむ会「福島支援ふるさ とバス運行（年末）」事業に事業に寄付・拠出
2014	寄付・拠出	130,000 円	かながわ避難者と共にあゆむ会「ふるさとコミュニ ニティ in かながわ」事業に寄付・拠出



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2019年度(R01)活動実績・2020年度(R02)活動計画≫

年度	項目	品目等	寄付・寄贈先
	寄付・拠出	50,000 円	かながわ避難者と共にあゆむ会「神奈川県内の避難者同士のコミュニティ作り交流会」事業に寄付・拠出
	寄付	10,000 円	「相双ふくしま子ども病院建設計画」(一般財団法人 相双未来基金) 後日、全体額が目標未達により中止で返金あり
	寄付	10,000 円	復興浜団(追悼復興花火)
	寄付・寄贈	圃場用設備への寄付	NPO 法人ザ・ピープルへ「福島オーガニックコットン圃場にトイレやビニールハウス設置！」へ50,000 円相当寄付
2016	寄贈	仮払機	復興浜団へ追悼復興花火に向け草刈りを行うための「刈払機」30,500 円相当
2017	寄贈	資機材	浪江町社会福祉協議会 138,500 円相当 刈払機、燃料、替羽、エアークンプレッサー等
2018	お見舞い	23,000 円	火事見舞金、南相馬市小高区に帰還の方へ会員から募り“火事お見舞い”
2019	寄贈	土嚢袋 100 枚	台風 19 号 いわき市社会福祉協議会
		土嚢袋 100 枚	台風 19 号 南相馬市社会福祉協議会(原町)
		土嚢袋 100 枚	台風 19 号 相馬市社会福祉協議会
		土嚢袋 100 枚	台風 19 号 郡山市社会福祉協議会
		土嚢袋 100 枚	台風 19 号 本宮市社会福祉協議会
		水 10 箱	台風 19 号 相馬、2L×9 本入り



1.5 組織概要

	会議体	目的
(1)	総会	総会は年1回開催。 活動報告、活動計画などの運営を決議する。
(2)	定例会	定例会は都度開催。 開催日は定例会で決め議事録とする。
(3)	臨時会議	臨時総会、臨時定例会。 役員が必要と認めたとき、代表が招集する。

1.6 会員制度

	会員項目	役割	年会費
(1)	正会員	入会時、および次年度以降は年1回、会費を納入しなければならない。正会員より総会にて役員を選出する。	2,000円/ 1口以上
(2)	一般会員	本会の活動を支援する会員とする。	なし
(3)	賛助会員	財政支援の個人・団体の会員とする。入会時、および次年度以降は年1回、会費を納入しなければならない。	1,000円/ 1口以上
(4)	情報発信	【非会員】情報発信に許諾いただいた方。	なし
(5)	参加登録	【非会員】過去、活動または参加応募参加された方。	なし

会員、情報発信・参加登録メンバーは当団体 ML に登録する。情報発信する。
 正会員会費は2016年度に2,000円/1口以上とした。

会員番号 kfx9999

K	kanagawa	
F	Fukushima	
X	会員	0：正会員（A：内ふくしま応援隊）、1：一般会員、2：賛助会員
	非会員	8：情報発信のメンバー、9：参加登録のメンバー
999	一連番号（001～999）	



1.7 団体登録先・情報登録先

登録先	登録内容・登録日等
かながわ県民活動サポートセンター	利用団体 (2012.01.27 登録)
特定非営利法人 かながわ避難者と共にあゆむ会	正会員 (2020.04.01 更新)
NPO 法人 ボランティアインフォ	ボランティア情報登録 (都度)
東日本大震災支援全国ネットワーク (JCN)	会員団体 (2016.02.19 申請)
ふくしま連携復興センター	準会員 (2016.02.29 承認)
広域避難者支援連絡会 in 東京	メルマガ (2016.05.06 登録)
CANPAN FIELDS (団体ID: 1032639997) 5つ★	団体登録 (2016.06.01 登録)
福島市社会福祉協議会	ボランティア活動登録
南相馬市社会福祉協議会	ボランティア活動登録
浪江町社会福祉協議会	ボランティア活動登録
本宮市社会福祉協議会	ボランティア活動登録
いわき市社会福祉協議会	ボランティア活動登録
かづろうさんげ 実行委員会 (葛尾村)	団体登録 (2019.12.06)
横浜市市民利用施設予約システム	団体登録 (2020.01.10 登録)
一般社団法人ならはみらいの「ならは応援団」 (檜葉町)	団体登録 (2020.03.19 登録)



1.8 当団体運営

1.8.1 定例会・管理事項等

定期開催	かながわ県民センター	11F 会議室など
議事録	議事録作成・管理	電子ファイルで保管
会計監査	年度末に内部会計監査実施	
寄付・寄贈	HP ですべて掲載	ご寄付のページ
会計	HP ですべて掲載	会計報告のページ

1.8.2 安全対策など

ボランティア活動保険	活動参加者の加入を確認	参加申込時
行事保険	行事实施時に加入	必要都度加入
活動マニュアル	活動場所ごとに作成	電子ファイルで保管
行程表	活動・行程表を都度作成	電子ファイルで保管
仮眠所	運転手仮眠所確保	各、現地で確保

1.8.3 教育関係（自主受講済み事項、ボランティアの一部スキル）（役員）

環境省 水・大気環境局除染等業務に係る特別教育	渡辺孝彦、村上幸
除染等業務作業指揮者教育	村上幸
労働安全衛生法による安全衛生教育（刈払機）	渡辺孝彦、東尚子、村上幸、私市慎治
労働安全衛生法による特別教育（チェーンソー）	渡辺孝彦、東尚子、村上幸
赤十字救急法 救急員	東尚子、村上幸
労働安全衛生法による特別教育修了 （小型車両系建設機械）	村上 幸(2014.05.25 追加) 私市慎治(2015.08.23 取得)
防災士（NPO 日本防災士機構）	東 尚子(2015.03.19 追加) 村上 幸(2015.12.25 追加)

（注）掲載は一部（抜粋）

1.8.4 保有備品（個人保有を除く）

TERRA-P	4台（購入）（活動時の計測管理）	参加者用
TERRA-N	6台（購入）（活動時の計測管理）	参加者用
メディキタス CK-6	9台（寄贈）（活動時の積算管理）	参加者用

（注）活動参加時の計測、積算を記録します。



2.2019 年度活動実績

2 2019年度活動実績（平成30年度／令和元年度）

2.1 福島の問題

福島の問題

東日本大震災から丸8年目が経過した。現地の避難指示解除の経過は以下である。

南相馬市小高区	2016年7月12日（平成28年）解除
双葉郡浪江町	2017年3月31日（平成29年）帰還困難区域を除き解除
双葉郡富岡町	2017年4月01日（平成29年）帰還困難区域を除き解除
双葉郡大熊町	2019年4月10日（平成31年）帰還困難区域を除き解除
双葉郡双葉町	2020年春（令和02年）避難指示解除準備区域と駅周辺の一部

現地で必要とされることは「一緒に、楽しく」である。

- ・ 福島に寄り添う
- ・ 現地での活動にとらわれず
- ・ 自分たちが中心とならず

そして、東日本大震災を伝え続ける。
当団体は福島に長く関わり続ける。

2.2 活動方針

私たちはボランティアである。

- ・ 活動できる場所であることの判断（安全判断）
- ・ 活動するうえで必要とする知識（安全知識）
- ・ 活動するうえでの現地受入団体の長との情報交換（安全の担保）

を行い、活動を進める。現地との情報交換も行い、現地のニーズにて活動を進める。
また、現地との関わりは長く続ける。

2.3 活動目的

2.3.1 現地活動

福島の復旧復興の取り組みに参加して、一緒に汗をかく、つながる。

- (1) 福島のボランティアに参加し、復旧復興に向けて一緒に汗をかく、つながる。
- (2) 福島で開催される交流事業に参加し、一緒に楽しみ、心のつながりを育む。

2.3.2 連携活動

関東圏や福島の団体と連携し、被災・避難当事者のためのつなぎ手となる。

- (1) 神奈川と福島の団体、行政とのつなぎ手として連携する。
- (2) 関東圏や福島の団体と連携し、被災・避難当事者を支援する活動、交流会・支援会議等に参加する。

2.3.3 視察研修

福島県内の地域を訪問し視察研修を行い、福島の当時・今・これからを伝えていく。

- (1) 福島の方々との信頼関係を醸成したうえで計画、遂行する。
- (2) 視察研修の参加者報告をまとめて報告書とし、情報発信に活用する（伝える）。

2.3.4 情報発信

講演会や勉強会、イベントへの出展等を通じて福島の現状・生の声を神奈川に伝える。

- (1) 福島から講師を招いて講演会や勉強会を企画し、直接お話を聞く機会を設ける。
- (2) 勉強会は総会や懇親会と同日開催することで会員の参加を促し理解を深める。
- (3) 広く現地の観光情報や物産情報を発信し、さまざまな形での福島応援を促す。
- (4) イベント等も活用し広く活動発信を行う。

2.3.5 災害復旧支援

国内で大規模な自然災害等が発生した場合に災害復旧支援に緊急対応する。

- (1) 実際の活動については状況に応じて決定する。
- (2) かながわ災害ボランティア活動支援室登録団体としての活動を行う。
(かながわ県民活動サポートセンター事業への参加活動を含む)

2.3.6 維持管理

福島の民間団体・個人、行政とのつながりの維持を目的として現地訪問を行う。

2.3.7 その他

有志活動の“美味しいふくしま”を通して福島の美味しいを伝える。

美味しいふくしまは、福島のもの食べて・飲んで、と押し付けるのではなくて、メンバーが本当に美味しいと思った福島の食べ物、飲み物を用意してみなさん食べて飲んでいただく機会、場を提供するものです。

そして、みなさんが美味しいと感じていただけたら自然と福島の食を味わっていただける。

そんな想いの活動です。

2.4 全体事業実績（概要）

福島活動の3つの柱である直接活動（福島県内での活動）、県内活動（神奈川県内での活動）、情報発信を中心とし5つの事業とし、以下に活動（事業詳細）を行う。

事業詳細		計画
《事業1》 現地活動	計画	毎月1便（除く11月：視察研修便月）を計画する。 実施形態はバス便、広域便にこだわらない。 バス便：18名以上、広域便：5人から8人程。
	実績	○概ね計画どおり実施した。川内村3便、葛尾村2便、飯舘村1便、ビーチクリーン（相馬市、新地町）1便、を実施した。新型コロナウイルス拡散防止のため、2020年1月以降の活動3便は見合わせた。
《事業2》 連携活動	計画	関東圏および現地団体と連携し、当事者のつなぎ手となるために、年4回まで、現地開催の支援活動、交流会、支援会議等に参加する。
	実績	○概ね計画どおり実施した。神奈川県内の連携として、あゆむ会事業、台風15号・19号の連絡会。当事者へのつなぎ手としては課題あり。
《事業3》 視察研修	計画	福島県内で視察研修を行い、福島の当時・今・これからの伝える。 【視察研修便】1回、参加者20人、視察研修7号
	実績	◎計画どおり実施した。民間の方々の協力をいただき、動きのある富岡町、大熊町、楡葉町（木戸川漁協）を実施した。参加者数は課題。
《事業4》 情報発信	計画	講演会や勉強会、イベントを通じて福島の生の声を神奈川に伝える。 【勉強会】6月、1回、50人、第8回勉強会 【講演会】1月、1回、50人、第9回講演会
	実績	◎計画どおり実施した。勉強会は富岡町からふたすけセンター長をお招きし6月に実施した。講演会はいわき市からAFW代表をお招きし1月に開催した。
《事業5》 災害復旧支援	計画	国内で大規模な自然災害等が発生した場合に災害復旧支援に緊急対応する。実際の活動については状況に応じて決定する。 また、かながわ災害ボランティア活動支援室登録団体の活動を行う。
	実績	○概ね目的を達成した。支援室登録団体としては、市民活動フェア2019参加、内閣府主催「災害時における三者連携・協働に向けた研修会」に参加した。災害復旧支援としては、被災地情報の収集と発信、個人での先遣活動、南相馬市、本宮市、いわき市への活動便による支援活動。また、物資支援なども行った。
《維持管理》 現地訪問等	計画	現地の民間団体、個人、行政などとのつながりの維持を目的とした現地訪問を適宜実施する。年4回（上期2回、下期2回）
	実績	○概ね目的を達成した。4回を計画したが3回に留まった。視察研修の報告と勉強会、視察研修、災害情報収集、講演会の調整が主な訪問であった。維持管理として間隔が空いてしまった先への訪問が必要。

(補足文)

2019.4.1

2019年度事業基本計画

活動の3つの柱である現地活動（福島県内での活動）、県内活動（神奈川県内を含む関東圏での活動）、情報発信（広く一般の方に）を基本として事業を計画する。

事業1：現地活動

福島の復旧復興の取り組みに参加して、一緒に汗をかく、つながる

- (1) 福島のボランティアに参加し、復旧復興に向けて一緒に汗をかく、つながる。
- (2) 福島で開催される交流事業に参加し、一緒に楽しみ、心のつながりを育む。

事業2：連携活動

関東圏や福島の団体と連携し、被災・避難当事者のためのつなぎ手となる。

- (1) 神奈川県と福島の団体、行政とのつなぎ手として連携する。
- (2) 関東圏や福島の団体と連携して被災・避難当事者を支援する活動、交流会・支援会議等に参加する。

事業3：視察研修

福島県内の地域を訪問し視察研修を行い、福島の当時・今・これからを伝えていく。

- (1) 福島の方々との信頼関係を醸成したうえで計画、遂行する。
- (2) 視察研修の参加者報告をまとめて報告書とし、情報発信に活用する（伝える）。

事業4：情報発信

講演会や勉強会、イベントへの出展等を通じて福島の現状・生の声を神奈川に伝える

- (1) 福島から講師を招いて講演会や勉強会を企画し、直接お話を聞く機会を設ける。
- (2) 勉強会は総会や懇親会と同日開催することで会員の参加を促し理解を深める。
- (3) 広く現地の観光情報や物産情報を発信し、さまざまな形での福島応援を促す。
- (4) イベント等も活用し広く活動発信を行う。

事業5：災害復旧支援

国内で大規模な自然災害等が発生した場合に災害復旧支援に緊急対応する。

- (1) 実際の活動については状況に応じて決定する。
- (2) かながわ災害ボランティア活動支援室登録団体としての活動を行う。

維持管理

福島の民間団体、個人、行政とのつながりの維持を目的として現地訪問を行う。

その他

有志活動である「美味しいふくしま」等で、福島の特産品を紹介する活動等を続ける。

かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)

2.5 事業詳細

2.5.1 《事業1》現地活動

(1) 現地課題

福島県双葉郡大熊町が2019年3月10日「帰還困難区域」を除き解除された。解除地区は町西側の大川原地区（居住制限区域）と中屋敷地区（避難指示解除準備区域）。町面積の約4割、町民の約4%、138世帯367人が3月末現在で住民登録されている。川原地区には新しい町役場が建設されて14日に開庁式があり、その後移転作業が進められている。役場近くに店舗や宿泊施設、災害公営住宅50戸の建設も進められている。

現地活動は、双葉郡、相馬郡など「福島応援」（現地の屋外片付け作業に関わらず）として必要とされることをお手伝いする。関心を薄れさせないよう神奈川県民にも伝えていく。

(2) 活動目的

毎月一回、現地へ足を運ぶことを継続する。地域とのつながりも醸成する。

(3) 活動実績

(参加者数)

計画	実績
毎月1便を計画する。(視察研修便月を除く) ・実施形態：バス便、広域便にこだわらない。 ・バス便：18名以上、広域便：5名～8名。	川内村3便、葛尾村2便、飯舘村1便、ビーチクリーン（相馬市、新地町）1便。 2020年1月以降の活動3便は見合わせた。

(4) 会計実績

(単位：円)

収入	計画予算	実績	支出	計画予算	実績
合計	542,864	542,864	合計	542,864	259,927
			収支(△繰越)	0	△282,937

(補足1) 広域便のレンタカー代はkfop支払い、他確定額の実費全額は参加者で按分。

(補足2) バス代金は参加者がバス会社へ直接支払う。

(5) 活動成果

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2月～3月便は実施を見合わせた。

川内村での活動は、かわうちワイン醸造を目指すブドウ圃場作業の手伝いを継続した。葛尾村での活動は、地域復興・住民との交流を目的として、田植えと稲刈りのイベントでテント設営などの協力を継続した。そして、前年度の視察研修先である、相馬市・新地町（2019年が震災後初の海開き）とのつながりから、バス便でビーチクリーン活動を実施できた。継続して現地応援、つながりを継続していく。

(6) 参加者の声（一部）

- ・今回はブドウの苗木を守るための苗木の根元の草取り。4時間5人でようやく5列終えることができた。広大な敷地、多くの参加者がいると助かる。みなさんもお手伝いに参加しましょう。（川内村便）
- ・バス便だったが参加の申し込みが少なかったことは残念だった。（ビーチクリーン）
- ・新しい方に参加して欲しい。神奈川にいて出来ることがある。災害復旧支援の強化が望まれる。それぞれにどうしたら良いか新しい方も交えて考えていきたい。（全般）

2.5.2 《事業2》連携活動

(1) 現地課題

避難されている方々の声に耳を傾け、共に進んでいく。また関東の自治体・社協などとの情報交換が必要とされてくる部分もある。福島と神奈川をつなぐ当団体として引き続き協力する。

(2) 活動目的

当団体は福島の現地に赴く団体として、現地と神奈川のつなぎ手となる。
 また、神奈川、東京、現地での交流会、会議などに参加し継続して情報を得る。
 あゆむ会からの共催・協力要請に応じてできることの事業協力を行う。

(3) 活動実績

(参加者数)

計画	実績
年4回ま、現地開催の支援活動、交流会、支援会議等に参加する。	台風15号・19号の連絡会。 当事者へのつなぎ手としては課題あり。

(4) 会計実績

(単位：円)

収入	計画予算	実績	支出	計画予算	実績
合計	90,000	90,000	合計	90,000	10,108
			収支(△繰越)	0	△79,892

(5) 活動成果

直接的な活動はなかったが。台風15号、19号では、現地とのつながりから、被害状況の情報収集のための訪問（いわき市社協、南相馬市社協、相馬市社協、本宮市社協、郡山市社協）、および被災地支援活動（南相馬市、本宮市、いわき市）を実施した。また、一部で物資支援も実施できた。

神奈川県においては、情報連携は十分とは言えないが、台風による影響の連絡会などに参加して意見交換、情報発信などを行った。

次年度は、計画にある現地と神奈川のつなぎ手となる目的に向け、現地活動、視察研修、情報発信などを通して継続していく。

2.5.3 《事業3》視察研修

(1) 課題

現地に行き、自分の目、耳、体で感じ、現地の今を神奈川に伝えていく必要がある。
 今までの活動のつながりを活かし、変わらずに継続して進める。

- ・ 東日本大震災と原発事故を『伝える』
- ・ 地元の現状、今を『正しく知る・伝える』
- ・ 自分たちにできることを『考える』

(2) 活動目的

現地に行き福島に関わるものとして、避難区域の今を知って活動を行う。
 年1回実施する。

(3) 活動実績

(参加者数)

計画	実績
【視察研修便7号】1回、参加者20人	2020.11.16-17で富岡町、大熊町、楢葉町(木戸川漁協)を実施。

(4) 会計実績

(単位：円)

収入	計画予算	実績	支出	計画予算	実績
合計	171,440	171,440	合計	171,440	128,740
			収支(△繰越)	0	△42,700

(補足1) 視察研修便は全額参加者負担。バス代、宿泊代等は参加者が直接支払う。

(補足2) 計画予算および実績は、視察研修の参加者実費以外の事前事後の調整・現地打合せ費用、現地ご案内費、視察研修冊子化費用である。

(5) 活動成果

視察研修は2020年11月16日(土)～17日(日)にバス便で実施した。参加者は残念ながら15名に留まった。今年度も台風被害なども影響している。

富岡町はふたばいんふおの平山様にアテンド、お話などの協力を頂戴した。大熊町は、一般社団法人おおくままちづくり公社の高田事務局長にアテンド、お話などの協力を頂戴した。楢葉町は、木戸川漁業協同組合の鮭ふ化場長 鈴木様にご案内、お話などのご協力を頂戴した。

(6) 参加者の声 (一部/詳細な、参加者報告は視察研修報告冊子にまとめています。)

≪ 今回の活動についてご意見、神奈川に伝えたいこと (自由に) ≫

- ・ 今回の視察が、福島固有であり核心である原発をテーマにしたもので、各種公表された情報では分からない部分を、実際に見て・説明を聞き、質問で深め、やりとりから本心に少しでも迫れたのではないかと思う。一番はそこに暮らしている/暮らすための葛藤や判断に触れることができた。講演会を含めて仲間を誘って、神奈川から多様な福島の実実を感じ、もらうことで広められればと思う。
- ・ 今回は盛沢山でした。特に、全く知らなかった「リプルンふくしま」や開館1年くらいの「東電廃炉資料館」も見ることができました。相双ボランティアの平山代表に会えて人柄を知ることができたことは、とても良かったです。

- ・ 住民、避難者、町、県、国、東電、関係者の苦悩を強く感じた。その苦闘と哀しみ、明日への努力を皆に伝えていきたい。
- ・ 福島の現状を神奈川全部の人が知って欲しい。
- ・ 富岡町、大熊町はこの2~3年の間にも多く区変わっているので、その変化を見続けて行きたいです。
- ・ いつもながら綿密な準備ありがとうございます。8年経ってようやく動き出した町があること、再認識し伝えたいと思います。
- ・ とても情報量が多かった。また、行政の立場ではなく町の住民の目線からお話し、ご案内いただいたことも、以前の視察のときと違って、一面的ではなく良かったと思う。
- ・ 木戸川漁協、鈴木さんの話には、今までの事業と今回の台風による被害に5年目に帰る鮭を期待しつつ、ものすごいダメージを受けながら案内に感謝します。カレンダーとてもううれしい。無理なさらないように。富岡町の平山様、大熊町の高田様も感謝します。
- ・ 研修便は自分ひとりでは体験できない。現地の人のお話しが聞け、現地の見学もできるという点で非常に有意義です。この企画を今後も続けてください。
- ・ どちらかという内容が多かった。一日目は一か所でもう少し時間をかけても良かったと思う。二日目の昼食はもう少しゆっくり時間があると良かった。早く出そうなメニューを選んだのに最後に出てきて急ぐことになった。
- ・ 富岡町、大熊町、檜葉町の3町に行かせていただき、様々な想いを聞かせていただいた。やはり実際に足を運ばないと見えてこないことがあると感じた。これからの福島のことも見続けていきたい。
- ・ 一泊二日であったが、内容の濃い研修であったと思います。また、途中、時間に余裕があるからと、道の駅ならばや、Jヴィレッジにも立ち寄れて良かったです。柔軟性があるのも良かったです。
- ・ 綿密な打ち合わせがあつての無駄のない程、いつもながら感謝です。全員が福島に寄り添い続けているからこそその動きともいえるかも。

《 今後の活動に期待すること（自由に） 》

- ・ 事業の実施／実現は、事前訪問や調整などの入念な準備があつてできていることと理解します。福島との目に見えるつながりは、細く、長い、寄り添った活動にできればと、自分できる範囲のかかわり方を続けられればと思います。今後ともよろしく願いいたします。
- ・ 視察研修便は継続して欲しい。復興に向けて歩いていく姿を見て知っていききたいので。
- ・ バス便は今後も出して欲しい。
- ・ できることをできる人ができる時に。活動内容も変化があるけれど「継続」を期待します。
- ・ 機会があれば木戸川の鮭祭りは再訪してみたい。
- ・ 変わらず福島の時間の動きにアンテナを常に張って行く。

2.5.4 《事業4》情報発信（講演会等）

(1) 課題

神奈川県内への情報発信は「伝える」ために必要である。

年に2度（上期：勉強会、下期：講演会）を通して、福島の方を招き、神奈川への発信を継続する必要がある。

(2) 活動目的

現地の方を招き講演会などを継続し、神奈川に福島を伝えていく。

(3) 活動実績

(参加者数)

計画	実績
第8回勉強会、第9回講演会	【勉強会】6月、1回、27人、第8回勉強会 【講演会】1月、1回、46人、第9回講演会

(4) 会計実績 (単位：円)

収入	計画予算	実績	支出	計画予算	実績
合計	540,000	467,200	合計	540,000	347,180
			収支(△繰越)	0	△120,020

(補足1) 旅費交通費は講師招致費。また調整打ち合わせ等費用は維持管理費で行う。

(5) 活動成果

総会、勉強会、講演会共に計画どおり実施した。

- ・ 勉強会は、鈴木亮さん（一般社団法人ふたすけ理事／ふたば地域サポートセンターふたすけセンター長）を招いて、「福島とのさまざまな関わり方と今後の展望」をテーマにお話しいただいた。
- ・ 講演会は、一般社団法人 AFW 代表 吉川彰浩さん（福島県いわき市在住）を招いて、「今あらためて福島から学び次世代に伝えるために」をテーマにお話しいただいた。神奈川県内の団体の協力をいただき、参加もしていただけた。

(6) 参加者の声（一部）

①勉強会 ≪感想・意見≫

- ・ 避難解除、復興庁終了等 現地の状況が変化する中で最新の多くの情報を得られました。参加メンバーからも活発な意見、想いがだされて充実した内容でした。
- ・ 学生現地に連れて行った部分の反応は新鮮で（自分の子供も同年代）、観光中心に知っているメンバーが積極的に出かけて発信することの重要性再認識しました。
- ・ 人とのふれあいが一番大事だと感じる勉強会でした。色々な話聞くことができ、あらためて福島へ行きたい気持ちになりました。

≪今後の講演会の企画に向けて≫

- ・ 今回と同じように福島につながりのある方の話をきいてみたいです。
- ・ 福島に係わって他の団体との交流ができると良いですね。kfop としても他団体に関わりたいですね。
- ・ kfop の方の思いを聞いてみたい。

②講演会 《感想・意見》

- ・ 吉川さんの考えることあきらめない！ここまでには、つらい大変な日があったと分かった。私の友人も東京にいるが、あえて話したことがなかった。いつか話をしてみたいと思った。
- ・ 時間がなく、たくさんのは書けませんが、災害のある、なしに関わらず、考え続けたいといけないうことだと思いました。
- ・ 2011年以降、数度東北を訪問していましたが、貴会が合わず福島に訪問しておりません。訪問したい気持ちがありながら、延ばし延ばしになってしまったところ、福島の話がきける機会を知り、参加させて頂きました。これをきっかけに、福島を訪問する機会が作ればと思います。
- ・ 福島が抱える課題である原発の話をお聴くことができ良かったです。心の変遷についてもお話して頂き、とても参考になりました。
- ・ ジオラマを初めて見ました。
- ・ とても意義深い話をきかせて頂きました。一方で告知のあったテーマとは合致していなかったかもしれません。個人の体験より、多くの現状を知りたいと思って来場しました。しかしながら得ることは、模型を使った説明は具体的でイメージしやすく胸が痛みました。吉川さんの語り口に心を打たれました。ありがとうございました。

《今後の講演会の企画に向けて》

- ・ いろいろお話をききたいです。

2.5.5 《事業5》災害復旧支援

(1) 課題

災害ボランティア団体として災害に備える。

神奈川県民センターで行われる「市民活動フェア」で団体紹介なども行う。

(2) 活動目的

自然災害等大規模災害の復旧支援を行うことを明確にし、活動を進める。

団体紹介なども行う。

(3) 活動実績

(参加者数)

計画	実績
国内の災害復旧支援に緊急対応する。 かながわ災害ボランティア活動支援室登録団体の活動を行う。	①台風災害情報発信 ②台風19号情報連絡会 ③台風19号被災地活動(3回) ④台風19号被災地物資支援

(4) 会計実績 (単位：円)

収入	計画予算	実績	支出	計画予算	実績
合計	50,000	100,000	合計	50,000	80,864
			収支(△繰越)	0	△19,136

(5) 活動成果

台風15号、19号による災害が発生した。①台風災害情報発信②台風19号情報連絡会③台風19号被災地活動(3回)④台風19号被災地物資支援等を実施した。

バス便を出すことはできなかった。次年度以降へ対応の強化を図る。

①被災地活動：南相馬市社協、本宮市社協、いわき市社協の災害復旧支援に参加

②被災地各地域への現地状況確認の訪問に合わせて、資材・物資等一部の支援を実施

③会員メーリングリスト宛に被災地情報などの情報発信

(6) 参加者の声 (一部)

- ・ <南相馬>敷地が広く、床上浸水もあり、ご家族がお疲れのご様子だった。午後から、廃棄物を運ぶ軽トラの台数が増えてはかどってよかった。
- ・ <本宮>家の中、床下は身内の方たちでコツコツと泥だしや掃除をされているご様子だった。周りの家も全て同じように1階が浸水(床上180cm、1階天井に達している家もある)した状態で、少し立ち話したが、この先の不安が感じられた。早く修繕が進むと良いのだが。若いボランティアさんが多く頼もしかった。
- ・ <いわき市>活動する旨を事前にお伝えしてあったため、8人程度の規模のニーズをすぐにマッチングしていただいた。また、受付時に自家用車で移動可能と伝えたため、乗ってきたワンボックスカーにそのまま資機材を積んで移動した。場所は好間地区で、ボランティアセンターからも近かった。いわき中央ICからも近い場所だが、広く浸水被害があった。周辺の民家でも道路沿いに土のうが積まれており、回収するダンプが行き来していた。

2.5.6 《維持管理》

(1) 課題

福島の各市町村、社協、民間団体等と連携するうえで、地元とのつながり維持は大切である定期的な訪問を行い、関係の維持に努める。(過年度に同じ)。

上期、下期に各2回を計画し、維持管理に努める。

(2) 活動目的

現地(行政・社協・地元の団体)を訪問し、つながりを維持する。

(3) 活動実績

(参加者数)

計画	実績
上期2回、下期2回訪問	訪問を3回実施。

(4) 会計実績 (単位:円)

収入	計画予算	実績	支出	計画予算	実績
合計	366,307	366,153	合計	366,307	138,135
			収支(△繰越)	0	△228,018

(5) 活動成果

福島訪問は3回に留まった。訪問は現地とのつながりを維持するために必要であり、今後も計画的に訪問する。

主な訪問は次のとおり。

①視察研修の事前調整、事後報告を兼ねて訪問を行い、旧来からの関わりの方からは視察研修実施に向けお力をお借りできた。また、新しい関わりの方とつながりを作ることもできた。

②台風被害の現地情報収集を含めて、被災地を訪問した。そのつながりの中で、被災地への直接的な復旧支援活動を受け入れていただき、当団体としても活動を実施できた。

2.5.7 《その他》

2019年1月19日(水) 美味しいふくしま2019として「復興バー銀座」に有志で参加した。

福島の食材とお酒、本場のなみえ焼きそばなどを味わっていただいた。

また、新たな有志も加わっていただいた。



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2019年度(R01)活動実績・2020年度(R02)活動計画≫

2.5.8 予算実績 (決算)

(1) 活動計算書

科目	金額					
	計画 金額(小計)	実績 金額(小計)	計画 金額(中計)	実績 金額(中計)	計画 金額(合計)	実績 金額(合計)
かながわ「福島応援」プロジェクト(kfop) 2019年4月1日 ~ 2020年3月31日まで (単位:円)						
I 経常収益						
1. 受取会費						
受取会費	120,000	116,000	120,000	116,000		
2. 受取寄付金						
受取寄付金(一般)	500,000	453,839				
受取寄付金(目的)	0	0	500,000	453,839		
3. 受取支援金等(寄付)						
受取民間支援金1	100,000	200,000				
受取民間支援金2	100,000	100,000	200,000	300,000		
4. 事業収益						
事業1収益		0				
事業2収益		0				
事業3収益		0				
事業4収益	240,000	167,200				
事業5収益		0				
(未使用)		0				
(未使用)		0				
(未使用)		0				
(未使用)		0				
維持収益		0	240,000	167,200		
5. その他収益						
受取利息		7	0	7		
経常収益計					1,060,000	1,037,046
II 経常費用						
1. 事業費						
(1) 人件費	0	0				
人件費計	0	0				
(2) その他経費						
事業支払負担金	0	0				
事業謝礼金	90,000	140,560				
事業源泉徴収額	9,000	0				
事業印刷製本費	17,000	65,504				
事業会議費	15,000	23,080				
事業旅費交通費	818,304	422,873				
事業通信運搬費	3,000	5,070				
事業消耗品費	0	0				
事業保険料	0	0				
事業支払手数料	0	1,416				
事業支払寄付金	0	0				
事業諸会費	0	169,200				
事業雑費	432,000	21,920				
その他経費計	1,384,304	849,623				
事業費計			1,384,304	849,623		
2. 管理費						
(1) 人件費	0	0				
人件費計	0	0				
(2) その他経費						
管理支払負担金	0	0				
管理印刷製本費	63,000	19,731				
管理会議費	5,000	0				
管理旅費交通費	148,000	46,090				
管理通信運搬費	12,000	2,796				
管理消耗品費	0	0				
管理保険料	0	0				
管理支払手数料	0	108				
管理支払寄付金	0	0				
管理諸会費	11,200	12,200				
管理雑費	137,107	34,406				
その他経費計	376,307	115,331				
管理費計			376,307	115,331		
経常費用計					1,760,611	964,954
当期正味財産増減額					-700,611	72,092
前期繰越正味財産額					700,611	700,611
次期繰越正味財産額					0	772,703

(2020年3月31日 現在)



(2) 貸借対照表

貸借対照表



かながわ「福島応援」プロジェクト(kfop)

2019年4月1日 ~ 2020年3月31日まで

(単位:円)

科目	金額	
I 資産の部		
1. 流動資産		
横浜BK会費口	772,703	
横浜BK寄付口	0	
仮払金	0	
流動資産合計		772,703
2. 固定資産		
固定資産	0	
固定資産合計		0
資産合計		772,703
II 負債の部		
1. 流動負債		
仮受金	0	
前受金	0	
未払金	0	
流動負債合計		0
2. 固定負債		
役員借入金	0	
固定負債合計		0
負債合計		0
III 正味財産の部		
前期繰越正味財産	700,611	
当期正味財産増減額	72,092	
正味財産合計		772,703
負債及び正味財産合計		772,703

(2020年3月31日 現在)



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 <<2019年度(R01)活動実績・2020年度(R02)活動計画>>

(3) 財務諸表の注記

財務諸表の注記



かながわ「福島応援」プロジェクト(kfop)

(会計期間：2019年4月1日～2020年3月31日まで)

1. 重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準によっています。

資産は、口座預金(会費口、寄付口)のみ、固定資産なし。借入等の負債なし(前受、仮受を除く)

2. 事業別損益の状況

事業別損益の状況は以下の通りです。

(単位:円)

科目	事業1 現地活動	事業2 連携活動	事業3 視察研修	事業4 情報発信	事業5 災害支援	事業 部門計	維持管理	合計
I 経常収益								
1. 受取会費(新規)	0	0	0	0	0	0	116,000	116,000
【事業計画】	0	0	0	0	0	0	120,000	120,000
※2. 受取寄付金(新規)	104,304	40,000	50,000	160,000	50,000	404,304	49,535	453,839
【事業計画】	104,304	40,000	50,000	160,000	50,000	404,304	95,696	500,000
※3. 受取支援金等	60,000	0	60,000	40,000	50,000	210,000	90,000	300,000
【事業計画】	60,000	0	60,000	40,000	0	160,000	40,000	200,000
※4. 受取目的寄付等	0	0	0	0	0	0	0	0
【事業計画】	0	0	0	0	0	0	0	0
5. 事業収益(参加費)	0	0	0	167,200	0	167,200	0	167,200
【事業計画】	0	0	0	240,000	0	240,000	0	240,000
※6. 前期繰越金(寄付)	378,560	50,000	61,440	100,000	0	590,000	110,611	700,611
7. 前期繰越金(目的)	0	0	0	0	0	0	0	0
8. 前期繰越金(会費)	0	0	0	0	0	0	0	0
9. その他収益	0	0	0	0	0	0	7	7
経常収益計	542,864	90,000	171,440	467,200	100,000	1,371,504	366,153	1,737,657
【事業計画計】	542,864	90,000	171,440	540,000	50,000	1,394,304	366,307	1,760,611
II 経常費用								
(1)人件費	0	0	0	0	0	0	0	0
人件費計	0	0	0	0	0	0	0	0
(2)その他経費								
諸謝金	0	0	26,500	114,060	0	140,560	0	140,560
源泉徴収額	0	0	0	0	0	0	0	0
印刷製本費	0	0	21,260	20,000	24,244	65,504	41,609	107,113
会議費	0	0	4,500	18,580	0	23,080	0	23,080
旅費交通費	258,091	0	67,440	12,290	52,140	389,961	79,002	468,963
車両費	0	0	0	0	0	0	0	0
通信運搬費	0	0	2,590	0	2,480	5,070	2,796	7,866
消耗品費	0	0	0	0	0	0	0	0
保険料	0	0	0	0	0	0	0	0
支払手数料	216	108	110	1,090	0	1,524	0	1,524
支払寄付金	0	0	0	0	0	0	0	0
諸会費	0	10,000	0	167,200	2,000	179,200	2,200	181,400
支払負担金	0	0	0	0	0	0	0	0
雑費	1,620	0	6,340	13,960	0	21,920	12,528	34,448
その他経費計	259,927	10,108	128,740	347,180	80,864	826,819	138,135	964,954
経常費用計	259,927	10,108	128,740	347,180	80,864	826,819	138,135	964,954
当期経常増減額	282,937	79,892	42,700	120,020	19,136	544,685	228,018	772,703

(※表示項目の金額は寄付口から会費口(事業用口座)へ振替額または予定額を示す。)

3. 「使途制限なし」寄付・支援金の内訳

内容	期首残高	当期 増加額	当期 減少額	期末残高	備考
azbil みつばち倶楽部	0	100,000	100,000	0	事業1:30,000,事業3:30,000,事業4:20,000,維持20,000
アズビル株	0	100,000	100,000	0	事業1:30,000,事業3:30,000,事業4:20,000,維持20,000
靖数倶楽部	0	50,000	50,000	0	事業5:25,000,維持25,000
富士ゼロックス株	0	50,000	50,000	0	事業5:25,000,維持25,000
	0	0	0	0	
	0	0	0	0	
合計	0	300,000	300,000	0	

2020年3月31日 現在)

(4) 監査報告書 (会計、事業)

監 査 報 告 書

かながわ「福島応援」プロジェクト(以下、「kfop」という。)の2019年度(平成31年4月1日～令和2年3月31日)の収支会計及び事業について監査したので報告する。

1. 監査方法の概要

2019年度の活動実績報告資料、その実施内容、会計収支元帳、財務諸表、預金通帳、領収書等証拠書類を閲覧して監査した。

2. 監査結果

1) 監事会計監査

会計収支元帳、預金通帳、領収書等証拠書類、財務諸表、損益計算書は、すべて相違なく、適正に表示されている。

2) 監事事業監査

事業1から事業5までの事業活動、および維持管理は、設立趣意書および活動基本に従い、2019年度の活動計画のとおり適正に実施している。

現地活動にあたっては、福島県内関係市町村と各地社会福祉協議会などを定期的に訪問して意思疎通を図り、現地の実情に即して日程変更などを含め活動計画を策定し、適切に実施している。また、現地活動の実施結果はホームページで報告して、会員・賛同者・寄付支援者・第三者などの理解と支持を得るべく努めている。

3) 追記事項、改善点の提言

特になし。

以上

2020(令和2)年4月24日

監事 矢島 國紀

平野香誉子





2.6 2019年度の役員・スタッフ

2.6.1 役員・スタッフ

区分	役割	氏名	兼務等	
役員	代表	渡辺 孝彦	重任	兼 会計、渉外、あゆむ会副理事長
	広報	東 尚子	重任	
		村上 幸	重任	
		私市 慎治	重任	
		長崎 羊子	重任	
監事		矢島 國紀	重任	監事（業務監査、会計監査）、記録
		平野香誉子	新任	監事（業務監査、会計監査）

2.6.2 事業担当

事業	事業名	担当
事業 1	現地活動	渡辺孝彦、東 尚子
事業 2	連携活動	東 尚子、渡辺孝彦、長崎羊子
事業 3	視察研修	渡辺孝彦、東 尚子
事業 4	情報発信	東 尚子、渡辺孝彦、村上 幸
事業 5	災害復旧支援	私市慎治、矢島國紀
維持管理	維持管理	渡辺孝彦、東 尚子
(関連事業)	美味しいふくしま	村上 幸、東 尚子

2.6.3 2019年度会員推移（2020年3月31日）状況

(単位：人)

区分		総人数	女性	男性
正会員	0/A	48名(-2)	19名(+1)	29名(-3)
一般会員	1	116名(-19)	40名(-12)	76名(-7)
賛助会員	2	9名(+1)	5名(+0)	4名(+1)
情報発信	8	23名(+7)	9名(+1)	14名(+6)
参加登録	9	91名(-25)	35名(-14)	56名(-11)
合計		287名 (-38)	108名(-24)	179名 (-14)

(補足) () 内は前年度 2019年3月31日対比

2.7 2019年度総括（令和元年）

2.7.1 現地活動

復興へ一緒に汗をかき、また一緒に楽しむ。地元の方々と一緒になって、福島に寄り添っていく。楽しく。今必要なことです。福島県双葉郡8町村、福島県全地域で必要なこと続けます。今年度は、前年度に視察研修で訪れた相馬市、新地町とのつながりより、震災後の海開きとして、ビーチクリーンのバス便を実施した。また、川内村、葛尾村では地域の復興へ色々な活動が展開されている。一つの応援です。今後も継続して福島に関わっていく。

2.7.2 連携活動

直接の被災・避難当事者を支援する活動、交流会・支援会議への参加は当年度もなかった。現地活動、勉強会・講演会、視察研修などを通して、現地と神奈川の連携は続けて行く。

2.7.3 視察研修

富岡町、大熊町、楡葉町（木戸川漁協）の視察研修を実施した。今回は主に民間の方のご協力をいただき、変化する過去に視察研修を行った地域の富岡町、大熊町を再訪した。また、楡葉町として木戸川漁協を初めて訪ねた。新しい発見、繋がりがある、また参加しやすいバスでの実施であったが、参加者は15人と低調であった。

現地での体を動かす活動も一つであるが、現地に赴き、地元の方と接して、聞いて・見て・感じて・知ること、大事なことである。引き続き当団体メンバーを含めて伝えていきたい。

2.7.4 情報発信

総会、勉強会、講演会、有志活動である“美味しいいふくしま”など、福島の実況・生の声を神奈川に伝える活動は行えた。今後も継続していく。

2.7.5 災害支援

2019年度も台風15号、台風19号と全国に多くの被害をもたらした。神奈川県内においても、福島県においても、各地域で被害があった。一方、ボランティア活動は集中する地域、人手が足りない地域、地域自助で進める地域など様々な動きがあった。

課題としては、①広範囲な地域での被災によるボランティアなど支援の偏り（集中と不足）、また②自助力が十分に動かない、発揮できない、③情報連携がされない、できない、故の①②の動きが、予てから見えている課題と感じる。

対策としては、やはり日頃からの緩やかな連携の醸成が引き続き必要と考える。また、地域の自助力の醸成が必要と考える。主体はボランティア団体ではなく、民間の方が先頭になることにより、ボランティア団体、民間、行政、企業、大学など様々な方々と緩やかな繋がり・情報連携・役割分担を行うことが出来るのではないかと考える。2019年度末頃から発生した「新型コロナウイルス」対応も、大きな繋がり、地域の連携が必要と思量する。

当団体としては、まず①災害発生時の対応事項、役割分担、協力スタッフ体制の整備。また、②支援へ即座に行動できるように計画予算の割り当てを課題として対策を進めて行く。

会員のみなさまのご協力も様々な形で是非お願いしたい。

2020年3月31日

かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)

代表 渡辺孝彦／スタッフ一同



3.2020年度活動計画

3 2020年度活動計画（令和2年度）

3.1 福島の問題

東日本大震災から丸8年が経過した。現地の避難指示解除の経過は以下のとおりである。

田村市	2014年4月01日（H26）解除（都路地区）
川内村	2014年10月1日（H26）避難指示解除準備区域（東部）を解除 2016年6月14日（H28）区域見直し後の全域を解除
檜葉町	2015年9月05日（H27）解除
南相馬市	2016年7月12日（H28）帰還困難区域を除き解除（主に小高区）
双葉郡葛尾村	2016年6月12日（H28）帰還困難区域を除き解除
相馬郡飯舘村	2017年3月31日（H29）帰還困難区域を除き解除
双葉郡川俣町	2017年3月31日（H29）解除（山木屋地区）
双葉郡浪江町	2017年3月31日（H29）帰還困難区域を除き解除
双葉郡富岡町	2017年4月01日（H29）帰還困難区域を除き解除 2020年3月05日（R02）帰還困難区域の一部（夜ノ森駅周辺）を解除
双葉郡大熊町	2019年4月10日（H31）帰還困難区域を除き解除 2020年3月05日（R02）帰還困難区域の一部（大野駅周辺）を解除
双葉郡双葉町	2020年3月04日（R02）避難指示解除準備区域と双葉駅周辺を解除

現地で必要とされることは、東日本大震災や原子力災害により直接的、間接的に影響を受けた地域の復旧復興を目指し、新たな地域づくり、なりわいづくり、交流人口拡大等を目指す現地の動きに賛同して「一緒に」活動することである。従来の現地活動だけにとらわれず、現地の人々が始めようとする心の汲み取り、自分の都合を中心にするのではなく、現地の人々に寄り添って活動し、また、災害の教訓を伝え続けることである。

3.2 活動方針

ボランティア団体として、以下の方針で活動を進める。

- ・ 活動できる場所であることの判断（安全判断）
- ・ 活動するうえで必要とする知識（安全知識）
- ・ 活動するうえでの現地受入団体の長との情報交換（安全の担保）

現地と情報交換し、現地のニーズを確認したうえで活動を進める。

また、現地とのかかわりは長く続ける。

3.3 活動目的

3.3.1 現地活動

福島県内の復旧復興、新たな地域づくり、なりわいづくり、交流人口拡大等の一助となるために一緒に汗を流し、つながる。

- (1) 福島県内での各種活動にボランティアとして参加して一緒に汗を流し、つながる。
- (2) 福島県内で開催される交流事業に参加し、一緒に楽しみ、心のつながりを育む。

3.3.2 連携活動

被災・避難当事者のためのつなぎ手となり、他団体や行政との連携を図る。

- (1) 神奈川県や周辺自治体、福島県の団体・行政とのつなぎ手として連携する。
- (2) 被災・避難当事者を支援する活動、交流会・支援会議等に参加する。

3.3.3 視察研修

福島県内の地域を訪問して視察研修を実施し、福島の当時・今・これからの伝えていく。

- (1) 福島の自治体や当事者との信頼関係を醸成したうえで計画、遂行する。
- (2) 視察研修の参加者報告をまとめて報告書とし、情報発信に活用する（伝える）。

3.3.4 情報発信

講演会や勉強会、イベントへの出展等を通じて、福島の実況、生の声を神奈川に伝える。

- (1) 福島から講師を招いて講演会や勉強会を企画し、直接お話を聴く機会を設ける。
- (2) 総会や懇親会と同日開催することで会員の参加を促す。
- (3) 被災地支援や市民活動にかかわるイベント等も活用し広く情報を発信する。

3.3.5 災害復旧支援

国内で大規模な自然災害等が発生した場合に災害復旧支援に緊急対応する。

- (1) 実際の活動については現地の状況に応じて決定する。
- (2) かながわ災害ボランティア活動支援室登録団体としての活動を行い、平時から他団体との情報交換や連携が可能な関係を築く。

3.3.6 維持管理

福島の間団体や個人、行政とのつながりの維持を目的として福島訪問を行う。

3.3.7 その他

有志活動の「美味しいふくしま」を通して福島の食、文化、地域の魅力を伝える。

食べて応援、風評払拭のため、などの大義を掲げて押しつけるのではなく、純粋に美味しさ、楽しさを通じて魅力を感じていただき、日常に取り入れていただけるように情報提供する。

3.4 全体事業計画（概要）

福島活動の3つの柱である直接活動（福島県内での活動）、県内活動（神奈川県内での活動）、情報発信を中心とし5つの事業とし、以下に活動（事業詳細）を行う。

事業詳細		計画
《事業1》 現地活動	計画	毎月1便を計画する（ただし11月は視察研修を予定するため除く）。 実施形態は、バス便、広域便にこだわらない。 バス便：18名以上、広域便：5人から8人程度。
《事業2》 連携活動	計画	他団体や行政と連携し、被災・避難当事者のつなぎ手となるために、 年4回まで現地の支援活動、交流会、支援会議等に参加する。
《事業3》 視察研修	計画	福島県内で視察研修を実施し、福島の当時・今・これからを伝える。 【視察研修便】1回、参加者20人、視察研修8号。規模や形式の見直し（活動と組み合わせての視察や、現地集合・解散で日帰り参加も可能にするなど）を検討・立案し承認の上で行う。
《事業4》 情報発信	計画	講演会や勉強会、イベントへの出展等を通じて、福島の現状、生の声を神奈川に伝える。 【勉強会】6月、1回、50人、第10回勉強会 【講演会】1月、1回、50人、第11回講演会
《事業5》 災害復旧支援	計画	国内で大規模な自然災害等が発生した場合に災害復旧支援に対応する。実際の活動については現地の状況に応じて決定する。 また、かながわ災害ボランティア活動支援室登録団体としての活動を行い、平時から他団体との情報交換や連携が可能な関係を築く。
《維持管理》 現地訪問等	計画	福島県内の民間団体、個人、行政とのつながりの維持を目的とした現地訪問を適宜実施する。年4回（上期2回、下期2回）

(公開・掲示用)

2020.4.1

2020年度事業基本計画

活動の3つの柱である現地活動（福島県内での活動）、連携活動（神奈川県内を含む関東圏での活動）、情報発信（広く一般の方に）を基本として事業を計画する。

事業1：現地活動

福島県内の復旧復興、新たな地域づくり、なりわいづくり、交流人口拡大等の一助となるために一緒に汗を流し、つながる。

- (1) 福島県内での各種活動にボランティアとして参加して一緒に汗を流し、つながる。
- (2) 福島県内で開催される交流事業に参加し、一緒に楽しみ、心のつながりを育む。

事業2：連携活動

被災・避難当事者のためのつなぎ手となり、他団体や行政との連携を図る。

- (1) 神奈川県や周辺自治体、福島県の団体・行政とのつなぎ手として連携する。
- (2) 被災・避難当事者を支援する活動、交流会・支援会議等に参加する。

事業3：視察研修

福島県内の地域を訪問して視察研修を実施し、福島の当時・今・これからを伝えていく。

- (1) 福島の自治体や当事者との信頼関係を醸成したうえで計画、遂行する。
- (2) 視察研修の参加者報告をまとめて報告書とし、情報発信に活用する（伝える）。

事業4：情報発信

講演会や勉強会、イベントへの出展等を通じて、福島の実況、生の声を神奈川に伝える。

- (1) 福島から講師を招いて講演会や勉強会を企画し、直接お話を聴く機会を設ける。
- (2) 総会や懇親会と同日開催することで会員の参加を促す。
- (3) 被災地支援や市民活動にかかわるイベント等も活用し広く情報を発信する。

事業5：災害復旧支援

国内で大規模な自然災害等が発生した場合に災害復旧支援に緊急対応する。

- (1) 実際の活動については現地の状況に応じて決定する。
- (2) かながわ災害ボランティア活動支援室登録団体としての活動を行い、平時から他団体との情報交換や連携が可能な関係を築く。

維持管理

福島の民間団体や個人、行政とのつながりの維持を目的として福島訪問を行う。

その他

有志活動の「美味しいふくしま」を通して福島の食、文化、地域の魅力を伝える。

かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)

3.5 事業詳細

3.5.1 《事業1》現地活動

(1) 現地課題

福島県、特に原子力被災12市町村（田村市、南相馬市、川俣町、広野町、楡葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、飯舘村）では、段階的に避難指示の解除が進んでいる。直近では、2019年3月10日に大熊町で帰還困難区域を除いて避難指示が解除された。また2020年3月14日には、常磐線の全線運行再開に伴い、帰還困難区域のうち双葉駅、大野駅、夜ノ森駅の周辺と一部道路について避難指示が解除された。しかし復旧復興のスピードは一律ではなく、当事者間での格差も生まれている。

一方で、現地の方々や事業者で対応できることは自ら解決する、ある意味で当然とも言える動きもあり、遠方からボランティアに行くこと自体、もう必要ないとの声もある。

この事業では、福島県内の復旧復興、新たな地域づくり、なりわいづくり、交流人口拡大等の一助となるために、現地で必要とされることをお手伝いする。一時的なボランティア活動ではなく、地域を支える一助となれるよう継続的にかかわっていくことも必要である。

(2) 活動目的

福島県内の復旧復興、新たな地域づくり、なりわいづくり、交流人口拡大等の一助となるために、現地で必要とされることをお手伝いする。

一時的なボランティア活動ではなく、地域を支える一助となれるよう継続的にかかわっていくことも必要であり、毎月一回、現地へ足を運ぶことを継続する。地域とのつながりも醸成する。

(3) 活動計画

(参加者数)

計画	実績
毎月1回、現地へ足を運ぶ。	

(4) 計画予算 (単位：円)

収入	計画予算	実績	支出	計画予算	実績
合計	410,000		合計	410,000	
			収支(△繰越)	0	

(補足1) 広域便のレンタカー代はkfop支払い、他確定額の実費全額は参加者で按分。

(補足2) バス代金は参加者がバス会社へ直接支払う。

3.5.2 《事業2》連携活動

(1) 課題

帰還困難区域を中心としていまだ避難を余儀なくされている方々もあれば、家族や仕事などのさまざまな事情により避難を継続されている方々もいる。新たな土地に移住して生活を再建された方々の中にも、故郷とのつながりを持ち続けようと望んでいる方がいる。

また、自治体や社会福祉協議会、民間団体等との情報交換、連携も必要な場合がある一方で、東日本大震災から10年目を機に、事業を終了する機関や団体が増えることも予想される。

(2) 活動目的

故郷とのつながりを持ち続けようと望んでいる方々の声に耳を傾け、地域の仲間として共に進んでいく。そのためにも、情報収集に努めながら、当事者や自治体とのつなぎ手として引き続き協力が必要である。

(3) 活動計画

(参加者数)

計画	実績
被災・避難当事者のためのつなぎ手となり、他団体や行政との連携を図る。また、被災・避難当事者を支援する活動、交流会・支援会議等に参加する。	/

(4) 計画予算

(単位：円)

収入	計画予算	実績	支出	計画予算	実績
合計	80,000	/	合計	80,000	/
			収支(△繰越)	0	/

3.5.3 《事業3》視察研修

(1) 課題

福島県、特に原子力被災12市町村（田村市、南相馬市、川俣町、広野町、楡葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、飯舘村）では、段階的に避難指示の解除が進んでいる。直近では、2019年3月10日に大熊町で帰還困難区域を除いて避難指示が解除された。また2020年3月14日には、常磐線の全線運行再開に伴い、帰還困難区域のうち双葉駅、大野駅、夜ノ森駅の周辺と一部道路について避難指示が解除された。しかし復旧復興のスピードは一律ではなく、当事者間での格差も生まれている。

(2) 活動目的

福島にかかわり活動する者として現地の最新の状況を学び、伝えていく必要がある。現地を訪れて、自分の目、耳、体で感じ、現地の今を神奈川に伝える。

(3) 活動計画

【前提】過年度の実績を踏まえて、規模や形式の見直し（活動と組み合わせての視察や、現地集合・解散で日帰り参加も可能にするなど）を検討・立案し承認の上で行う。

年1回実施する。



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2019年度(R01)活動実績・2020年度(R02)活動計画≫

(参加者数)

計画	実績
信頼関係を醸成しながら計画する。同時に、参加者の負担減や参加しやすさも模索する。	

(4) 計画予算

(単位：円)

収入	計画予算	実績	支出	計画予算	実績
合計	150,000		合計	150,000	
			収支(△繰越)	0	

(補足 1) 視察研修便は全額参加者負担。バス代、宿泊代等は参加者が直接支払う。

3.5.4 《事業 4》情報発信（講演会等）

(1) 課題

福島県の原子力被災 12 市町村では避難指示の解除も段階的に進み、特にこの 1~2 年は顕著な変化が見られるが、復旧復興のスピードは一樣ではなく、多くの課題が残っている。しかし東日本大震災に関する情報は、3 月にはメディアの報道が増えるが、それ以外の時期はよほど関心を持って注視しない限りほとんど見聞きされない中で、一般の方々の関心は薄れ、現状が伝わりづらくなっている。私たち福島県外に住む者も、関心を薄れさせることなく、福島について学ぶべきことは多い。

(2) 活動目的

福島にかかわり応援する者として現地の状況と課題を知り、伝える必要がある。それには、被災当事者の方や現地で活動している方、福島に関するアクションにかかわっている方をお招きし、生の声を神奈川に伝えるのが効果的だと考える。

現地の方を招き講演会などを継続し、神奈川に福島を伝えていく。

(3) 活動計画

(参加者数)

計画	実績
講演会、勉強会（年に 2 回、上期に勉強会、下期に講演会）を通じて現状を伝え、理解を深める。総会や懇親会と同日開催することで会員の参加を促す。また、被災地支援や市民活動にかかわるイベント等も活用し広く情報を発信する。	

(4) 計画予算

(単位：円)

収入	計画予算	実績	支出	計画予算	実績
合計	460,000		合計	460,000	
			収支(△繰越)	0	

(補足 1) 旅費交通費は講師招致費。また調整打ち合わせ等費用は維持管理費で行う。

3.5.5 《事業5》災害復旧支援

(1) 課題

近年、大規模な自然災害が毎年のように発生している。2019年には、九州北部豪雨、台風15号、19号と立て続けに激甚災害が発生し、神奈川県内でも災害ボランティアセンターが設置された。同時期に各地で被害が発生したことからボランティア等が分散し、人手不足で復旧作業が長期化する事態となったのは記憶に新しい。

一方で、行政、民間団体、個人ボランティアなどが平時から顔の見える関係を築き、情報交換と連携ができるようにしておかなければ、いざというときにバランスよく支援が行えない懸念もあるため、体制づくりは必要である。

(2) 活動目的

国内で大規模な自然災害等が発生した場合に災害復旧支援に対応することを事業として明確にし、体制づくりをする。実際の活動については現地の状況に応じて決定する。

また、かながわ災害ボランティア活動支援室登録団体としての活動を行い、平時から他団体との情報交換や連携が可能な関係を築いていく。

(3) 活動計画

(参加者数)

計画	実績
体制づくり。平時から他団体との情報交換。実際の活動は現地の状況に応じて決定する。	/

(4) 計画予算

(単位：円)

収入	計画予算	実績	支出	計画予算	実績
合計	480,000	/	合計	480,000	/
			収支(△繰越)	0	/

3.5.6 《維持管理》

(1) 課題

各事業を企画運営するうえで、福島県内の行政、社会福祉協議会、民間団体等との連携は不可欠である。担当者の異動や交代なども考慮して、定期的な訪問でつながりを維持することが重要である。

(2) 活動目的

上期、下期に各2回程度、福島県内の行政、社会福祉協議会、民間団体等訪問し、つながりを維持する。また、視察研修や講演会の調整なども念頭に置き、効率のよい訪問を計画する。

(3) 活動計画

(参加者数)

計画	実績
年4回訪問を行う。	/

(4) 計画予算

(単位：円)

収入	計画予算	実績	支出	計画予算	実績
合計	522,703	/	合計	522,703	/
			収支(△繰越)	0	/



3.5.7 《関連事業》

有志活動である「美味しいふくしま」を継続する。



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2019年度(R01)活動実績・2020年度(R02)活動計画≫

3.5.8 事業予算 (期初計画)

(1) 活動計算書

科目	金額					
	計画 金額(小計)	実績 金額(小計)	計画 金額(中計)	実績 金額(中計)	計画 金額(合計)	実績 金額(合計)
かながわ「福島応援」プロジェクト(kfop) 2020年4月1日 ~ 2021年3月31日まで (単位: 円)						
I 経常収益						
1. 受取会費						
受取会費	110,000	0	110,000	0		
2. 受取寄付金						
受取寄付金(一般)	480,000	0				
受取寄付金(目的)	0	0	480,000	0		
3. 受取支援金等(寄付)						
受取民間支援金1	300,000	0				
受取民間支援金2	200,000	0	500,000	0		
4. 事業収益						
事業1収益		0				
事業2収益		0				
事業3収益		0				
事業4収益	240,000	0				
事業5収益		0				
(未使用)		0				
(未使用)		0				
(未使用)		0				
(未使用)		0				
維持収益		0	240,000	0		
5. その他収益						
受取利息		0	0	0		
経常収益計					1,330,000	0
II 経常費用						
1. 事業費						
(1) 人件費	0	0				
人件費計	0	0				
(2) その他経費						
事業支払負担金	0	0				
事業諸謝金	180,000	0				
事業源泉徴収額	20,000	0				
事業印刷製本費	30,000	0				
事業会議費	10,000	0				
事業旅費交通費	864,800	0				
事業通信運搬費	0	0				
事業消耗品費	0	0				
事業保険料	0	0				
事業支払手数料	0	0				
事業支払寄付金	0	0				
事業諸会費	160,000	0				
事業雑費	315,200	0				
その他経費計	1,580,000	0				
事業費計			1,580,000	0		
2. 管理費						
(1) 人件費	0	0				
人件費計	0	0				
(2) その他経費						
管理支払負担金	0	0				
管理印刷製本費	130,000	0				
管理会議費	10,000	0				
管理旅費交通費	180,000	0				
管理通信運搬費	12,000	0				
管理消耗品費	0	0				
管理保険料	0	0				
管理支払手数料	0	0				
管理支払寄付金	0	0				
管理諸会費	20,900	0				
管理雑費	169,803	0				
その他経費計	522,703	0				
管理費計			522,703	0		
経常費用計					2,102,703	0
当期正味財産増減額					-772,703	0
前期繰越正味財産額					772,703	772,703
次期繰越正味財産額					0	772,703

(2020年4月1日 現在)

(2) 貸借対照表

貸借対照表



かながわ「福島応援」プロジェクト(kfop)

2020年4月1日 ~ 2021年3月31日まで

(単位:円)

科目	金額	
I 資産の部		
1. 流動資産		
横浜BK会費口	772,703	
横浜BK寄付口	0	
仮払金	0	
流動資産合計		772,703
2. 固定資産		
固定資産	0	
固定資産合計		0
資産合計		772,703
II 負債の部		
1. 流動負債		
仮受金	0	
前受金	0	
未払金	0	
流動負債合計		0
2. 固定負債		
役員借入金	0	
固定負債合計		0
負債合計		0
III 正味財産の部		
前期繰越正味財産		772,703
当期正味財産増減額		0
正味財産合計		772,703
負債及び正味財産合計		772,703

(2020年4月1日 現在)



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2019年度(R01)活動実績・2020年度(R02)活動計画≫

(3) 財務諸表の注記

財務諸表の注記



かながわ「福島応援」プロジェクト(kfop)

(会計期間 : 2020年4月1日 ~ 2021年3月31日まで)

1. 重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準によっています。

資産は、口座預金(会費口、寄付口)のみ、固定資産なし。借入等の負債なし(前受、仮受を除く)

2. 事業別損益の状況

事業別損益の状況は以下の通りです。

(単位:円)

科目	事業1 現地活動	事業2 連携活動	事業3 視察研修	事業4 情報発信	事業5 災害支援	事業 部門計	維持管理	合計
I 経常収益								
1. 受取会費(新規)	0	0	0	0	0	0	0	0
【事業計画】	0	0	0	0	0	0	110,000	110,000
※2. 受取寄付金(新規)	0	0	0	0	0	0	0	0
【事業計画】	160,000	40,000	0	20,000	200,000	420,000	60,000	480,000
※3. 受取支援金等	0	0	0	0	0	0	0	0
【事業計画】	100,000	0	20,000	100,000	0	220,000	80,000	300,000
※4. 受取目的寄付等	0	0	0	0	0	0	0	0
【事業計画】	0	0	0	0	200,000	200,000	0	200,000
5. 事業収益(参加費)	0	0	0	0	0	0	0	0
【事業計画】	0	0	0	160,000	80,000	240,000	0	240,000
※6. 前期繰越金(寄付)	150,000	40,000	130,000	180,000	0	500,000	272,703	772,703
7. 前期繰越金(目的)	0	0	0	0	0	0	0	0
8. 前期繰越金(会費)	0	0	0	0	0	0	0	0
9. その他収益	0	0	0	0	0	0	0	0
経常収益計	150,000	40,000	130,000	180,000	0	500,000	272,703	772,703
【事業計画計】	410,000	80,000	150,000	460,000	480,000	1,580,000	522,703	2,102,703
II 経常費用								
(1) 人件費	0	0	0	0	0	0	0	0
人件費計	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) その他経費								
謝礼金	0	0	0	0	0	0	0	0
源泉徴収額	0	0	0	0	0	0	0	0
印刷製本費	0	0	0	0	0	0	0	0
会議費	0	0	0	0	0	0	0	0
旅費交通費	0	0	0	0	0	0	0	0
車両費	0	0	0	0	0	0	0	0
通信運搬費	0	0	0	0	0	0	0	0
消耗品費	0	0	0	0	0	0	0	0
保険料	0	0	0	0	0	0	0	0
支払手数料	0	0	0	0	0	0	0	0
支払寄付金	0	0	0	0	0	0	0	0
諸会費	0	0	0	0	0	0	0	0
支払負担金	0	0	0	0	0	0	0	0
雑費	0	0	0	0	0	0	0	0
その他経費計	0	0	0	0	0	0	0	0
経常費用計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	150,000	40,000	130,000	180,000	0	500,000	272,703	772,703

(※表示項目の金額は寄付口から会費口(事業用口座)へ振替額または予定額を示す。)

3. 「使途制限なし」寄付・支援金の内訳

内容	期首残高	当期 増加額	当期 減少額	期末残高	備考
	0	0	0	0	
	0	0	0	0	
	0	0	0	0	
	0	0	0	0	
	0	0	0	0	
	0	0	0	0	
合計	0	0	0	0	

2020年4月1日 現在)

3.6 2020年度の役員・スタッフ

3.6.1 役員・スタッフ

区分	役割	氏名	兼務等	
役員	代表	渡辺 孝彦	重任	兼 会計、渉外、あゆむ会副理事長
	広報	東 尚子	重任	
		村上 幸	重任	
		私市 慎治	重任	
		長崎 羊子	重任	
監事		平野香誉子	重任	監事（業務監査、会計監査）
		矢島 國紀	退任	2020年6月20日退任（総会承認）
協力スタッフ （敬称略）18人		森本健、矢島國紀、池田学、荒川朱美、森田清、北田美代子、岡村恭子、岩崎眞澄、柿木都、山下潔、田村武司、後藤民夫、小村清一、長田剛、福田光、武田恒男、橋本洋子、木幡四郎、		

（説明）協力スタッフ：会員に限らず都合の着く時に事業に協力していただける方

3.6.2 事業担当

事業	事業名	主担当	
事業1	現地活動	役員	渡辺孝彦, 東 尚子
		協力	1-3:後藤民夫, 小村清一, 池田学, 長田剛, 福田光, 北田美代子
事業2	連携活動	役員	東 尚子, 渡辺孝彦, 長崎羊子
		協力	2-2:矢島國紀
事業3	視察研修	役員	渡辺孝彦, 東 尚子
		協力	3-1:北田美代子, 矢島國紀
事業4	情報発信	役員	東 尚子, 渡辺孝彦, 村上 幸
		協力	4-1:森本健, 矢島國紀, 北田美代子, 岡村恭子, 柿木都, 岩崎眞澄, 田村武司, 4-3:矢島國紀
事業5	災害復旧支援	役員	村上 幸, 私市慎治
		協力	5-1:池田学, 荒川朱美, 5-2:矢島國紀 5-3:森田清
維持管理	維持管理	役員	渡辺孝彦, 東 尚子
		協力	6-1:森本健
（関連事業）	美味しいふくしま	役員	村上 幸, 東 尚子
		協力	7-1:岡村恭子, 山下潔, 武田恒男, 橋本洋子, 木幡四郎

（説明）協力：会員に限らず都合の着く時に事業に協力していただける「協力スタッフ」



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2019年度(R01)活動実績・2020年度(R02)活動計画≫

≪事業毎に協力していただきたい内容は異なります≫

- 【事業 1】 1-1 【現地活動】 現地活動リーダー
- 1-2 【現地活動】 活動報告作成 (アンケート集計、活動報告、写真など)
- 1-3 【現地活動】 運転スタッフ (安全運転の前提)
- 【事業 2】 2-1 【連携活動】 広域避難関係の交流会、勉強会、講演会出席など
- 2-2 【連携活動】 災害等の連携活動 (会議出席、情報連携など)
- 【事業 3】 3-1 【視察研修】 視察研修報告の文章起こし (word)
- 【事業 4】 4-1 【情報発信】 情報発信全般の企画、運営
- 4-2 【情報発信】 勉強会・講演会の企画、運営、報告書作成
- 4-3 【情報発信】 市民活動フェアの企画、運営、報告書作成
- 【事業 5】 5-1 【災害復旧支援】 災害復旧支援の全般 (企画、運営、報告など)
- 5-2 【災害復旧支援】 災害情報収集&情報発信 (メール,HP,FB など)
- 5-3 【災害復旧支援】 助成金申請～報告までの手続き
- 【維持管理】 6-1 【維持管理】 Web アルバム保存
- 【美味しいふくしま】
- 7-1 【美味しいふくしま】 調理担当、飲み物コーナー担当、写真

3.6.3 2020年度の会員状況 (2020.05.31 時点)

(単位：人)

区分		総人数	女性	男性
正会員	0/A	41名(-7)	16名(-3)	25名(-4)
一般会員	1	124名(+8)	45名(+5)	79名(+3)
賛助会員	2	9名(±0)	3名(-2)	6名(+2)
情報発信	8	22名(-1)	9名(±0)	13名(-13)
参加登録	9	91名(±0)	35名(±0)	56名(±0)
合計		287名(±0)	108名(±0)	179名(±0)

(補足) () 内は前年度 2020年3月31日対比

3.7 最後に

当団体は、2020年度も黙々と活動を進めます。

信頼関係を築きながら長期的にかかわることを前提とし、福島の方々とのつながりを育み、維持することを目指します。

福島の環境は絶えず変わっていきます。今では私たち以上に元気と笑顔が福島にあふれています。支援、応援という目線ではなく、相手に共感しながらかかわることが求められているのが現在です。このような変化は私たちも肌で感じています。

当団体は「福島応援」を掲げて活動を続けていますが、応援の意味するところは「一緒に」ということです。友人・仲間として受け入れていただくことは簡単ではありませんが、それでも神奈川から福島へ足を運び続けたい。

福島の現地に、そして、神奈川に避難を余儀なくされている方々が必要とされることに対し、少しでもお手伝いさせていただければと考えています。

福島の元気に！
福島の笑顔に！
福島を伝える！
福島に長くかかわる！

私たちは、無理をして活動を続けているのではなく、福島に行きたいから行く。
元気に、明るく、楽しく参加者と活動を続けていきます。
変わらず福島を応援し、一緒に汗を流し、共感し、かかわり続けます。

2020年度もよろしくお祈いします。

2020年4月1日
かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
代表 渡辺孝彦／スタッフ一同

4 補足資料

4.1 活動様子 (年度毎、事業毎の記録・写真)

4.1.1 2011年度の活動様子

～これは震災後初期の“渡辺個人”の活動記録 (参考まで)～

(1) 活動日

2011.5.5 (木) 終日～6 (金) 午前

(2) 被災地(折戸地区)

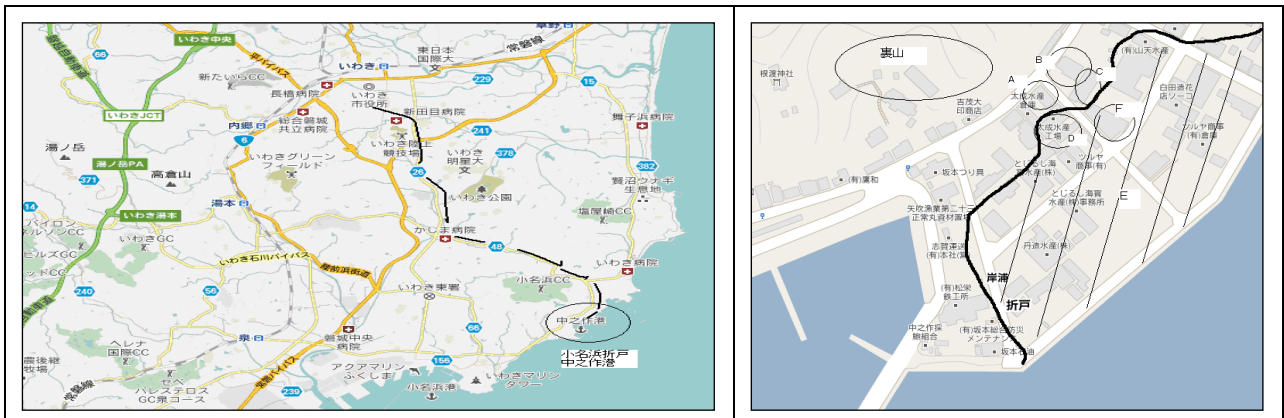
いわき市災害救援ボランティアセンター

運営：いわき市社会福祉協議会

住所：いわき市平字菱川町1番地の3 いわき市社会福祉センター1階

(3) 地図

被災地：小名浜折戸地区 (中之作港脇) <いわき市から車で約30分>



(4) 被災状況

海岸から裏山まで約200M、ほぼ全域が被災

A：ボランティア依頼被災者宅 (床上浸水、半壊、D工場が壁になった)

B：Aさんの息子宅 (無傷、C病院が壁になった、息子：福島空港勤務 孫：千葉 (GWで帰郷))

C：病院 (半壊、一階は使用不能、病院は休業中)

D：工場は全壊

F：家が跡形もなく全壊 (二人亡くなられた)

E：この一体がほぼ壊滅状態 (いわき市に避難中)、重機で撤去し道は通れるようになった。被災し潰れた車はそのまま、流された家のがれきは大量に付いた。

■1ヶ月以上経ってのGWによろやく地区に入れ片付けがはじめられたとのこと。

■今後のお住まいは、ご両親 (A) が息子さんのB宅に住まわれる息子さんは須賀川の勤務先借家 (福島空港)

■A宅は、住めるかは分からないが、畳を上げ片付中

■下水は使えず、お風呂はBの裏手の方にある兄弟宅で入っている

■支援時はA (ご両親)、B (息子、孫)、親戚 (兄弟宅) の3家族5人で片づけをされていた。

(5) 活動状況

【支援事前】

- 09:30 ボランティアセンターに到着し受付（センター5Fで）
- 09:40 ボランティア名簿一覧に記載し待機室へ入室
- 09:45 待機室で詳細資料の記載（血液、免許有無、特技、緊急連絡先、車提供可否など）
- 10:00 ボランティア事前説明会（個人情報管理、他諸注意事項）、約15分
- 10:30 ボランティアマッチング（支援依頼と支援者のマッチング、車提供）

【支援開始】

- 11:00 支援メンバー・支援宅・リーダー決め（車運転者は除く）・資材決定し移動準備・移動。支援先、内容（Aさん宅の敷地回りの側溝と通路の確保（約25m位））
車2台、メンバー8名（内4名は12:30で引き上げ）で移動開始、約30分かかる
- 11:30 到着車、ご挨拶と早速作業開始
- 12:30 名引き上げ、追加要請した後発5名到着
- 12:30 昼食
- 12:40 作業再開
- 13:50 休憩
- 14:00 作業再開
- 15:00 大方目処が付いた、後片付け
- 15:30 引き上げ

【支援終了】

- 16:00 ボランティアセンターへ到着、報告を作成し解散（4時センター到着がル

【当日支援者数・状況】

- ・参加者：400名
- ・天気：曇り（作業には丁度良かった天気）
- ・ボランティアマッチング待ち時間：約30分（全体待ちは約1時間）
- ・持ち物：スコップ、軍手、厚手の手袋、ゴム手袋、水、昼食、かっぱ、防塵マスク
- ・服装：作業着（本当の作業着）、長靴（金具の灰居たもの）、リュック（貴重品）
- ・車：移動に提供、4人ずつで相乗り（地図、ナビで移動）

【支援メンバー】

-----午前で終了メンバー-----

- ・岐阜の若者：二人で、車、大分慣れた感じ、一泊2日、2日目は午前で終了。
てきぱきこなして作業していた。段取りが良い。（午前で終わり）
- ・会津の親子：お母さんと息子、医者とのこと、日帰り（午前で終わり）。
実質30分程しか出来なかった。残念がっていた。

-----終日メンバー-----

- ・東京の主婦：一人で、三泊四日（5千円の宿、宿は20cmほど敷地が沈下）
リーダー役をした。サバイバルナイフでハムを食べてた。慣れてた。
- ・大阪の学生：一人で大阪から電車で来てホテルに三泊（8千円×三日）。
少々頼りなかったが、今しか来れないと、中々。
- ・いわき市の主婦：地元ではないが被災していないのでと、支援に（二泊位の様子）。活
動的ではなく、口数も少なかった。

-----午後メンバー-----

- ・千葉の若者？（30歳～40歳位）：実家は栃木か茨城とか、食べ物を沢山持ってきた、
パワフル。後発支援組み、電車で来た。小さいスコップ持参（側溝に役立った）
- ・町田の女性：電車で、力持ち、一人で一輪車に土嚢を積んで、集積場所に
黙々と作業。無理するなと言うと、大丈夫！と、被災された方が一緒に手伝った。

- ・地元の若者：高校出たばかり（いわき市の工業高校）の元ラグビー部の頼りになる二人連れ。学生かと思ったと言ったら、ほめられたのか？とスコップでの泥かき出しは一番仕事してくれた。元気良かった。GW 期間中毎日来ている、と。

【作業内容】

- ・埋まった側溝：側溝の上の、がれき・ガラス・石・ブロックの撤去（匂いがすごい）
- ・側溝の上の土出し：がれきが片付いたら、側溝が見えるように上の泥かき（重労働）
- ・側溝の泥かき：水が流れるように、綺麗に。角型スコップが入らず（重労働）
- ・私道の泥かき：側溝両脇を歩けるように、泥かき・整地（土建仕事）
- ・土嚢の搬出：集積場へ一輪車で（土嚢、がれき、割れ物などなど）
- ・後片付け：周りをきれいにして掃除
- ・最終確認：依頼された方へ作業場所を見ていただいて、了解を受け終わり
- ・引き上げ：メンバー（怪我がないか）、資材の点検（忘れ物はないか）し引き上げ

(6) 状況と所感

- ・高速道路は5月5日GWのはざまと言うこともあって、横浜町田からいわき中央まで渋滞もなくすいすいで行けた。料金も休日料金（5月6日平日も料金は休日料金）。
- ・常磐道の北茨城・日立あたりから道路状況が悪くなった。修理箇所とか多くあり、特に橋の所の段差があり、100k/時以上出していると車はジャンプする。
- ・同じく、途中から瓦の落ちた家が散見されるようになった。
- ・いわき市まで大体4時間で着いた。駅近くの街中もビルは地番沈下、古い家は倒壊が散見。
- ・市役所の駐車場に付き、SVCへ移動、途中のいわき文化交流館に居た人に道を尋ねたら小名浜からの避難者家族だった。
- ・SVCでの事前の説明会では地元のスタッフが色々説明、標準語のつもりだが、ふくしま弁で言葉が分からなかったら質問して、と一応笑いを獲っていた。
- ・マッチングの待ち時間が意外と長かった、次々に支援者が増えて着た。マッチングで、xxの仕事とスタッフが言うが、実際はなかなか手が挙がらない泥かきは一度すると中々大変な感じ。
- ・支援先、メンバーが決まり、リーダー役決め（緊急連絡があるので運転手以外）
- ・メンバーとは車で移動の30分の中でコミュニケーションが取れた（何処から、何時までとか）
- ・作業の途中までは、被災者の方は中々近寄らずに居たが、親戚のおじさんが入り、B宅の主人・孫が入りと、みんなで片づけを進めた。多分見ていられなかったのだろう。
- ・親戚のおじさんは、お孫さんに白髪のおじさん（私のこと）より力がないな一と、笑わせた。
- ・休憩中にその親戚のおじさんに湾を案内して頂いた、昔は多くの漁師さんがいたが200海里問題で廃業せざるを得なくなった人が多く居た、と。良い海なんだがな一、原発もな一、と。がれきもどこも引き取ってくれないから、一ヶ月経っても変わらない。家族だけで綺麗にするのは無理、助かったと。綺麗になったら、釣りに来てくれと言われた。
- ・5月6日の朝2時頃に震度5弱の地震、ホテルが“ゆっさゆっさ”とゆれ、倒れるかと思った。ホテルもまだ修理途中。その後も続いて、作業で体は痛いし、魚の腐った匂いは鼻・服に付き、寝不足だし。5月6日は挨拶をして早めの帰宅となった。
- ・GWが明け、人数が100人程に落ちた（ピークは千人位）とのこと。
- ・行ってみて分かること（被災者、支援者、スタッフ、避難者、町の人、街）が多い。

～渡辺～

4.1.2 2011年度の活動様子（福島応援隊）※kfopの任意団体設立の前身活動です。

 <p>20111029 福島応援隊#1 大波地区分校</p>	 <p>20111029 福島応援隊#1 分校の落ち葉の片付け</p>	 <p>20111029 福島応援隊#1 地区長さん</p>
 <p>20111112 福島応援隊#2-1 集会場（集合場所）</p>	 <p>20111112 福島応援隊#2-2 大波地区（民家の客土）</p>	 <p>20111112 福島応援隊#2-3 大波地区（民家の客土）</p>
 <p>20111126 福島応援隊#3-1 福島市危機管理室</p>	 <p>20111126 福島応援隊#3-3 大波小学校（その後廃校）</p>	 <p>20111126 福島応援隊#3-4 大波地区の民家</p>
 <p>20111210 福島応援隊#4-1 作業の説明（菅野さん）</p>	 <p>20111210 福島応援隊#4-2 福島市社協さんと大波地区</p>	 <p>20111210 福島応援隊#4-3 大波地区、3t分</p>

4.1.3 2012年度の活動様子



20120414-1 福島 1 便
 弁天山公園へ



20120414-2 福島 1 便
 集合・説明



20120414-2 福島 1 便
 福島市危機管理室、菅野さん



20120519-1 福島 2 便
 安達太良 SA から安達太良山



20120519-2 福島 2 便
 大波城址公園 (ひまわり畑)



20120609-1
 大波城址公園 (ひまわり播種)



20120609-2
 地区の方のお話 (ひまわり播種)



20120802 ふるさとコミュニティ in
 かながわ (第1回)



20120825 福島 5 便
 南相馬初回 (鹿島区社協)



20120901
 なみえしゃぼりば (馬場町長)



20120910 町別交流会
 (富岡町 1 回目)



20120921 福島 6 便
 南相馬市小高区塚原地区



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2019年度(R01)活動実績・2020年度(R02)活動計画≫



20120921 福島 6 便
 (南相馬市小高区塚原地区)



20121008 町別交流会
 (-双葉町 1 回目)



20121013 会津避難先にて
 (大熊町、大野・熊川)



20121017 町別交流会
 (大熊町 1 回目)



20121109 町別交流会
 (楡葉町 1 回目)



20130223 福島 12 便
 (花に願いを 1 号：街中掃除)

4.1.4 2013 年度の活動様子



20130420 福島 13 便
 (花見山 1 号)



20130420 福島 13 便
 (花見山 1 号：阿部さん宅)



20130518 福島 14 便
 (花に願いを 2 号：街中掃除)



20130728 水害支援
 (西伊豆 1 号 kfop バス)



20130810 いわき・福島へ
 (ふるさとバス 1 号)



20130810 いわき・福島へ
 (ふるさとバス 1 号見送り)



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2019年度(R01)活動実績・2020年度(R02)活動計画≫

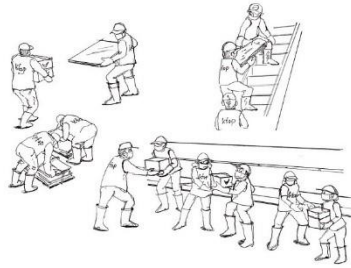
 <p>20130824 福島 17 便 (花に願いを 5号)</p>	 <p>20130824 町別交流会 (浪江町 1 回目)</p>	 <p>20130907 福特 2 便 (南相馬 3 号)</p>
 <p>20131214 福島 21 便 (花に願いを：街中掃除)</p>	 <p>20140222-1352 福特 7 便 (南相馬市小高区)</p>	 <p>20140222-1352 福特 7 便 (南相馬市小高区)</p>
 <p>20140321 福德 8 便 (南相馬市小高区)</p>	 <p>20140321 福德 8 便 (南相馬市小高区)</p>	 <p>20140321 福德 8 便 (南相馬市小高区)</p>

4.1.5 2014 年度の活動様子

 <p>20140412 福島 35 号 (花見山 2 号：茶屋沼公園)</p>	 <p>20140412 福島 35 号 (花見山 2 号：花見山)</p>	 <p>20140412 福島 35 号 (花見山 2 号：阿部さん宅)</p>
---	--	---



20140524-福島 37 便
 (南相馬 12 号)



20140524-福島 37 便
 (南相馬 12 号)



20140524-福島 37 便
 (南相馬 12 号)



20140628-福島 39 便
 (南相馬 13 号)



20140824 福島 41 便
 (南相馬 15 号)



20140908 かながわ
 (丹波水害支援)



20140914 ふるコミ 5



20141025-福島 43 便
 (南相馬 1 7 号)



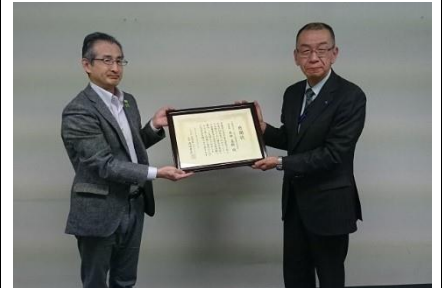
20141213-福島 45 便
 (南相馬 19 号)



20141213-福島 45 便
 (南相馬 19 号)



20150310 感謝状贈呈
 (シティアクセス株式会社様へ)



20150330 感謝状贈呈 (一般財団法人
 神奈川県建築安全協会様へ)

4.1.6 2015年度の活動様子



20150411 福島 48 便
 (富岡町視察研修：夜の森)



20150411 福島 48 便
 (富岡町視察研修：減容施設)



20150411 福島 48 便
 (富岡町視察研修：学びの森)



20150411 福島 48 便
 (富岡町視察研修：遺構)



20150411 福島 48 便
 (富岡町視察研修：学びの森)



20150425 福島 49 便
 (南相馬市)



20150523 福島 50 便
 (金房ボラセン前)



20150523 福島 50 便
 (萱浜)



20150523 福島 50 便
 (塚原)



20150803 復興バー



20150808 福島 53 便



20151013-訪問



20151016 川内村
 (有志1号)



20151024-25 福島56
 (視察研修：大熊町)



20151024-25 福島56
 (視察研修：大熊)



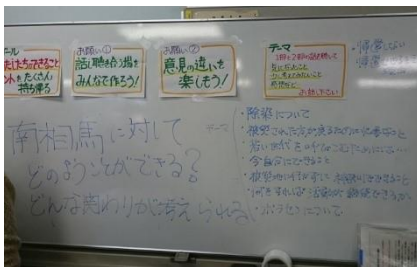
20151212 福島58便
 (南相馬29号/ひまわりカフェ)



20160109 講演会
 (鈴木センター長)



20160109 講演会
 (村田小高区長)



20160109 講演会
 (講演会後の勉強会)



20160227-1 福島59便
 (南相馬市小高区)



2016-02-26-67 福島59便
 (南相馬30号)



20160321
 市民活動フェア



20160321
 双葉郡未来会議



2016-03-25-26 福島60便
 (南相馬31号)

4.1.7 2016年度の活動様子



【事業1】小高区ボラバス



【事業2】相双ボラ参加



【事業2】川内村ブドウ植栽ボラ



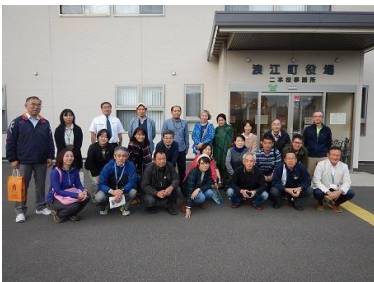
【事業4】双葉郡未来会議参加



【事業4】ふるさと未来創造会議参加



【事業5】双葉町視察研修便



【事業5】浪江町視察研修便



【事業6】第2回講演会



【事業6】第3回講演会



【事業7】2017 市民活動フェア



【有志活動】相馬野馬追観戦



【有志活動】美味しい福島伝え隊

4.1.8 2017年度の活動様子



20170408 川内村ブドウ植栽(初回)



20170708-復興バー@銀座



20170722 福島 75 便(南相馬 44 号)



20170826 福島 76 便(南相馬 45 号)



20171007 福島 83 便(葛尾村 01 号)



20171014 福島 78 便(視察研修 5)



20171014 福島 78 便(視研修 5 号)



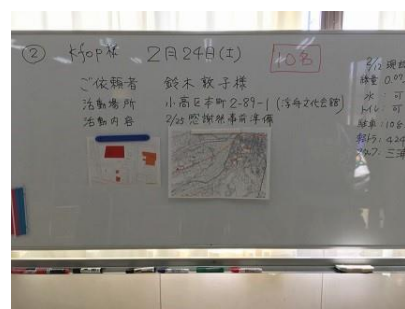
20171015 福島 78 便(視察研修 5 号)



20171216-17 川内村ワイン



20180120 講演会



20180224 福島 81 便(南相馬 49 号)



20180225 福島 81 便(南相馬 49 号)

4.1.9 2018年度の活動様子

【事業1：現地活動】（浪江町）

		
<p>20180421 福島 86 便(浪江町 03 号)</p>	<p>20180421 福島 86 便(浪江町 03 号)</p>	<p>20180519 福島 87 便(浪江町 04 号)</p>
		
<p>20180609 福島 88 便(浪江町 05 号)</p>	<p>20180609 福島 88 便(浪江町 05 号)</p>	<p>20180721 福島 89 便(浪江町 06 号)</p>
		
<p>20180825 福島 90 便(浪江町 07 号)</p>	<p>20180922 福島 91 便(浪江町 08 号)</p>	<p>20181020 福島 92 便(相双ボラ 01)</p>
		
<p>20181020 福島 92 便(相双ボラ 01)</p>	<p>20181124 福島 95 便(浪江町 10 号)</p>	<p>20181208-2 福島 95 便(浪江町 11 号)</p>

【事業1：現地活動】 (川内村)



20180411 福島 99 便 (川内村 02 号)



20180414 福島 99 便 (川内村 02 号)



20181215 福島 102 便 (川内村 04 号)



20181216 福島 102 便 (川内村 04 号)



20190330 福島 98 便 (川内村 05 号)



20190331 福島 98 便 (川内村 05 号)

【事業1：現地活動】 (葛尾村)



20180626 福島 100 便
 (葛尾村 02 号・川内村 03 号)



20180626 福島 100 便
 (葛尾村 02 号・川内村 03 号)



20181008 福島 101 便 (葛尾村 03 号)



20190525 福島 104 便
 (葛尾村 04 号/川内村 07 号)

【事業2：連携活動】



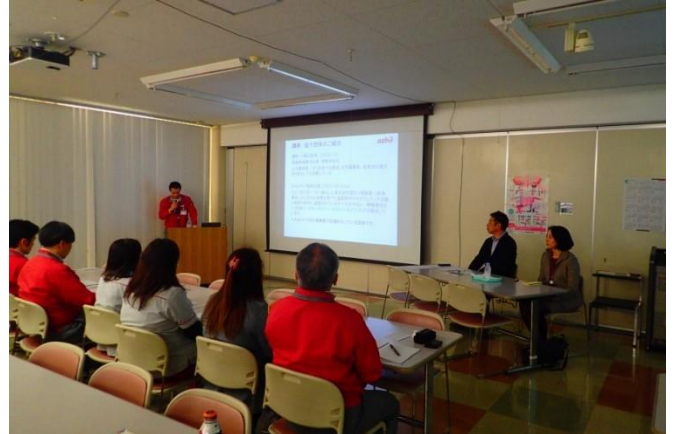
20181102 葛尾の新米



20190322 葛尾村



20190328azbil 防災企画



20190328azbil 防災企画

【事業3：視察研修】



20190216 福島 93 便 (視察研修 6 号)



20190216-2 福島 93 便 (視察研修 6 号)



20190217 福島 93 便 (視察研修 6 号)



20190217 福島 93 便 (視察研修 6 号)

【事業4：情報発信】



20180623 総会



20180623 勉強会



20190117 第7回講演会 (小幡広宣さん)



20190117 第7回講演会 (小幡広宣さん)

【維持管理】 現地訪問など



20180529 福島訪問1 (ふたすけ)



20180907 福島訪問2 (新地町)



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfpf)
 ≪2019年度(R01)活動実績・2020年度(R02)活動計画≫



20181111 福島訪問3 (相馬市、小幡さん)



20190322 福島訪問4 (ふたばいんふお)

【その他】有志活動など



20180729 有志便 (2018 相馬野馬追)



20180820 美味しいふくしま伝え隊



20181118 『新地町の漁師たち』横浜上映会



20181118 『新地町の漁師たち』横浜上映会

4.1.10 2019年度の活動様子



20190420 福島 103 便
 (川内村 06 号)



20190526 福島 104 便
 (葛尾村)



20190615
 第 8 回勉強会



20190629 福島 107 便
 (ビーチクリーン)



20190629 福島 107 便
 (ビーチクリーン)



20190824 福島 108 便
 (川内村 08 号)



20190824 福島 108 便
 (川内村 08 号)



20191102 福島 113 便
 (台風 19 号復旧支援 1 号)
 南相馬市原町区



20191103 福島 113 便
 (台風 19 号復旧支援 1 号)
 本宮市社協



20191103 福島 113 便
 (台風 19 号復旧支援 1 号)



20191105 福島 112 便
 (双葉ワールド)



20191105 福島 112 便
 (双葉ワールド)



20191105 福島 112 便
 (葛尾村 05 号)



20191105 福島 112 便
 (葛尾村 05 号)



20191105 福島 112 便
 (地元のお母さん)



20191105 福島 112 便
 (田圃のご主人)



20191105 福島 112 便
 (稲刈り参加)



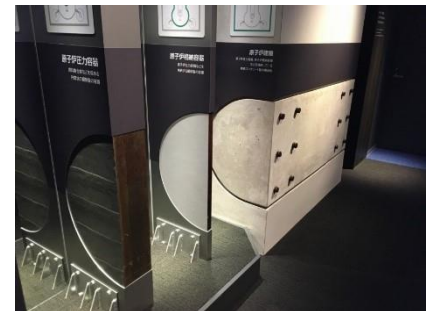
20191105 福島 112 便
 (設営手伝い)



20191116 福島 114 便
 (視察研修 7 号 : 富岡町)



20191116 福島 114 便
 (視察研修 7 号・富岡町)



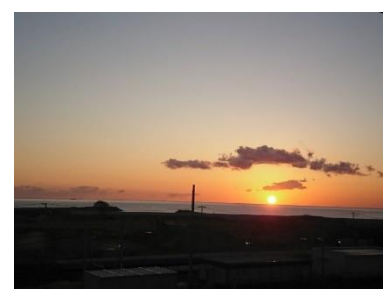
20191116 福島 114 便
 (廃炉資料館)



20191116 福島 114 便
 (廃炉資料館)



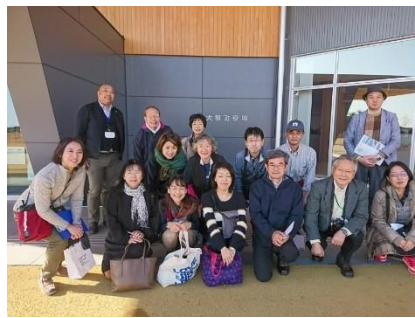
20191116 福島 114 便
 (ふたばいんふお)



20191116 福島 114 便
 (富岡ホテル)



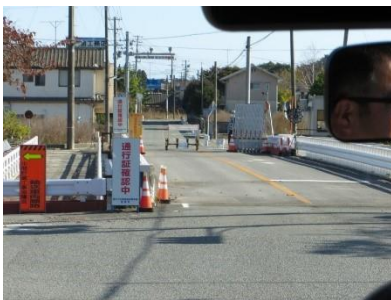
20191117 福島 114 便
 (富岡ホテル前)



20191117 福島 114 便
 (大熊町役場前)



20191117 福島 114 便
 (6号線)



20191117 福島 114 便
 (大熊町内)



20191117 福島 114 便
 (大熊町庁舎)



20191117 福島 114 便
 (木戸川漁協)



20191117 福島 114 便
 (鮭やな場)



20191117 福島 114 便
 (鈴木さんご説明)



20191117 福島 114 便
 (ご説明)



20191117 福島 114 便
 (やな場)



20191117 福島 114 便
 (鮭の卵)



20191117 福島 114 便
 (昼食)



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2019年度(R01)活動実績・2020年度(R02)活動計画≫



20191117 福島 114 便
 (参加者作成・回った先)



20191129 福島 117 便
 (台風 19 号復旧支援 3 号)
 いわき市



20191129 福島 117 便
 (台風 19 号復旧支援 3 号)
 いわき市



20191129 福島 117 便
 (台風 19 号復旧支援 3 号)
 いわき市



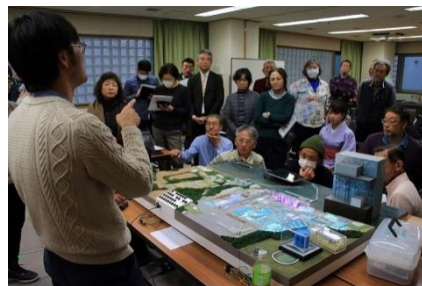
20191214 福島 115 便
 (川内村 11 号)
 地元のお母さん



20191214 福島 115 便 (川内村 11 号)
 高田島ヴィンヤード



20191214 福島 115 便
 (川内村 11 号)



20200118 第 9 回講演会
 (吉川彰浩さん)



20200118 第 9 回講演会
 (吉川彰浩さん)



20200118 第 9 回講演会
 (吉川彰浩さん、懇親会)



20200129
 美味しいふくしま@銀座



20200129
 美味しいふくしま@銀座



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 ≪2019年度(R01)活動実績・2020年度(R02)活動計画≫

4.2 2020年度の活動日程 (計画、一部抜粋、状況により変更あり)

2020年度-kfop事業計画日程

4月							5月							6月								
月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日		
		1	2	3	4	5					1	2	3								6	7
					144							145									146	
6	7	8	9	10	11	12	4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12		13	14	
13	14	15	16	17	18	19	11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21		
							飯館村(かぼちゃ)/山木屋(廣野さん)							総会9・勉強会10↑								
20	21	22	23	24	25	26	18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28		
											葛尾村便(田植え)			川内村便(ぶどう)								
27	28	29	30				25	26	27	28	29	30	31	29	30							
川内村便(かえるマラソン)							福島訪問#1															
7月 [オリンピック7/24-8/9]							8月 [オリンピック8/25-9/6]							9月 [オリンピック8/25-9/6]								
月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日		
		1	2	3	4	5						1	2	31	1	2	3	4	5	6		
					147							148								149	←	
6	7	8	9	10	11	12	3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13		
													←									
13	14	15	16	17	18	19	10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20		
							麓山の火祭り															
20	21	22	23	24	25	26	17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27		
			→	南相馬便(野馬追)										川内村便(ぶどう)								
27	28	29	30	31			24	25	26	27	28	29	30	28	29	30						
							福島訪問#2															
10月							11月							12月								
月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日		
			1	2	3	4						31	1	30	1	2	3	4	5	6		
							葛尾村便(稲刈り)							川内村便(収穫祭)								
5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8	7	8	9	10	11	12	13		
					150							151	★1F研修									
12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15	14	15	16	17	18	19	20		
			富岡町・楢葉町便(漁港・ふ化場)								視察研修便(08号)			川内村便(ぶどう)								
19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22	21	22	23	24	25	26	27		
												十日市										
26	27	28	29	30	31		23	24	25	26	27	28	29	28	29	30	31					
							福島訪問#3															
1月							2月							3月								
月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日		
				1	2	3	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7		
												154								155		
4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14	8	9	10	11	12	13	14		
					153	群馬県																
11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21	15	16	17	18	19	20	21		
			講演会11↑											川内村便(ぶどう)								
18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28	22	23	24	25	26	27	28		
											福島訪問#4											
25	26	27	28	29	30	31								29	30	31						

<凡例> ※ボランティアは前月初1日に募集を開始する。視察便は前々月初。

XX(数字のみ): 定例会(土曜日15:00~18:00、県サポ11Fパートナーシップルーム)

XXX: 広域便 XXX: 宿泊便 XXX: バス便 XXX: 視察便 福島訪問

総: 総会 講: 講演会 勉: 勉強会 懇: 懇親会

kfop2020年度(R02)活動日程・予算v20200401_1.xlsx



保護ページ